

学生募集要項



2026

令和8年4月入学

令和7年10月入学

[一般入試]

[社会人特別入試]

[外国人留学生特別入試]

大学院 総合医薬学研究科

総合医薬学専攻（修士課程・博士前期課程）

- 先端医科学プログラム
- 看護科学プログラム
- 先端薬科学プログラム

令和7年6月

富山大学

不測の事態により、試験日程等本学生募集要項の内容を変更する場合があります。変更する必要がある場合は、本学ウェブサイトでお知らせいたしますので、最新の情報を確認するよう留意してください。

<https://www.u-toyama.ac.jp>

大学院総合医薬学研究科（修士課程・博士前期課程）入学者選抜の概要	4
I 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	5
II 一般入試	7
1 入学者選抜日程の概要	
2 募集人員	
3 出願資格	
4 外部英語試験の利用について	
5 先端医科学プログラム入学者選抜方法	
6 看護科学プログラム入学者選抜方法	
7 先端薬科学プログラム入学者選抜方法	
III 社会人特別入試	11
1 入学者選抜日程の概要	
2 募集人員	
3 出願資格	
4 外部英語試験の利用について	
5 先端医科学プログラム入学者選抜方法	
6 看護科学プログラム入学者選抜方法	
IV 外国人留学生特別入試	14
1 入学者選抜日程の概要	
2 募集人員	
3 出願資格	
4 外部英語試験の利用について	
5 先端医科学プログラム入学者選抜方法	
6 看護科学プログラム入学者選抜方法	
7 先端薬科学プログラム入学者選抜方法	
V 共通事項	18
1 出願手続	
2 受験票の印刷	
3 出願資格認定申請	
4 合格者発表	
5 入学手続	
6 入学志願者の個人情報保護について	
7 出願上の注意事項	
8 安全保障輸出管理について	
9 障害等のある入学志願者の事前相談	
10 入試情報開示	

VI 大学院総合医薬学研究科の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

1 先端医科学プログラム

- (1) 目的, 学位
- (2) 授業科目及び単位数
- (3) 教育方法の特例
- (4) 課程修了の要件
- (5) 指導教員研究内容一覧

2 看護科学プログラム

- (1) 目的, 学位
- (2) 授業科目及び単位数
- (3) 教育方法の特例
- (4) 課程修了の要件
- (5) 指導教員研究内容一覧

3 先端薬科学プログラム

- (1) 目的, 学位
- (2) 授業科目及び単位数
- (3) 教育方法の特例
- (4) 課程修了の要件
- (5) 指導教員研究内容一覧

本研究科先端医科学プログラム（修士課程）、看護科学プログラム及び先端薬科学プログラム（博士前期課程）（令和8年4月入学）の学生募集は、2回に分けて実施する予定ですが、第2回の学生募集は、第1回の学生募集の定員充足状況により実施しない場合があります。実施の有無については、令和7年11月頃に本学ウェブサイトで公表します。

なお、第2回までの志願状況により第3回を実施する場合があります。

大学院総合医薬学研究科（修士課程・博士前期課程）入学者選抜の概要

募集人員

令和8年4月入学

専攻	プログラム名	募 集 人 員		
		一般入試	社会人特別入試	外国人留学生特別入試
総合 医薬学 専攻	先端医科学プログラム	6人	若干名	若干名
	看護科学プログラム	8人	若干名	若干名
	先端薬科学プログラム	32人	—	若干名
	合 計	46人		

注 各プログラムの募集人員は、概ねの人数です。

令和7年10月入学

専攻	プログラム名	募 集 人 員		
		一般入試	社会人特別入試	外国人留学生特別入試
総合 医薬学 専攻	先端医科学プログラム	若干名	若干名	若干名
	看護科学プログラム	若干名	若干名	若干名
	先端薬科学プログラム	若干名	—	若干名

入学試験関係日程

事項	総合医薬学専攻 (先端医科学プログラム, 看護科学プログラム, 先端薬科学プログラム)	
	令和8年4月入学【第1回】 及び令和7年10月入学 一般入試, 社会人特別入試, 外国人留学生特別入試	令和8年4月入学【第2回】 一般入試, 社会人特別入試, 外国人留学生特別入試
出願資格審査照会期限 (該当者のみ)	令和7年7月3日(木)	令和8年1月9日(金)
出願資格審査結果通知 (該当者のみ)	令和7年7月10日(木)まで	令和8年1月16日(金)まで
出願期間	令和7年7月11日(金) ～7月18日(金)	令和8年1月19日(月) ～1月26日(月)
受験票等発行	令和7年8月6日(水)(予定)	令和8年2月12日(木)(予定)
試験日	令和7年8月19日(火)	令和8年2月20日(金)
合格者発表	令和7年9月2日(火)	令和8年3月6日(金)
入学手続 (締切日)	(令和7年10月入学) 令和7年9月12日(金) (令和8年4月入学) 令和8年1月21日(水)(予定)	令和8年3月13日(金)(予定)

※第2回の学生募集は、第1回の学生募集の定員充足状況により実施しない場合があります。実施の有無については、令和7年11月頃に本学ウェブサイトで公表します。

I 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

総合医薬学研究科 入学者受入れの方針

総合医薬学研究科は、本研究科の目的、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、医療系の研究分野についての強い関心と基礎的能力を有し、論理的思考力と創造性を持ち、人と地の健康文化の進展に寄与しようとする意欲を備えている者を受け入れる。

そのため入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供する。

先端医科学プログラム 入学者受入れの方針

- ・生命科学に興味を持ち、医学の基礎・臨床分野における基礎知識を修得し、最先端の知識に触れることにより、高度な専門職業人として様々な分野で活躍したい人材を求める。
- ・医療系の社会人として、最先端の医学知識の涵養を図り、職場でのキャリアアップを図りたい人材を求める。

【入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）】

多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。また社会人特別入試、外国人留学生特別入試を実施する。

一般入試

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験、口述試験、志望理由書及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。

社会人特別入試

入学者の選抜は、業績審査、外国語（英語）試験、口述試験、志望理由書及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。

外国人留学生特別入試

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験、口述試験、志望理由書及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。

看護科学プログラム 入学者受入れの方針

看護学とその学際領域における幅広く深い学識を持ち、研究遂行能力または高度で専門的な職業人に必要な能力を養うという目的を理解し、次の資質をもつ学生を求める。

- (1) 高度な先端医療に対応できる技術、心理や生命倫理など全人的な理解、人々のQOLや自己回復を引き出す能力、保健医療福祉の課題などの熟達した対応が求められる分野で活躍したいと考えている者
- (2) 看護の現状認識と将来の展望にたって保健医療福祉の課題を総合的・組織的に把握し、課題に対応できることを目指す優れた看護実践のためのキャリア形成を求めている者

【入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）】

多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。また社会人特別入試、外国人留学生特別入試を実施する。

一般入試

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験及び口述試験の成績により、高度な看護実践能力と看護研究方法を修得するための基盤となる基礎的な知識、研究遂行能力等を評価する。

社会人特別入試

入学者の選抜は、業績審査、外国語（英語）試験及び口述試験の成績により、高度な看護実践能力と看護研究方法を修得するための基盤となる看護実践実績及び(業務)研究実績、研究への関心・遂行能力等を評価する。

外国人留学生特別入試

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験及び口述試験の成績により、高度な看護実践能力と看護研究方法を修得するための基盤となる基礎的な知識、研究遂行能力等を評価する。

先端薬科学プログラム 入学者受入れの方針

将来、薬科学関連領域の研究者・教育者・技術者、及び医薬品の開発や普及を担う専門家として、人々の健康と学術研究の進歩に貢献できる人材を育成することを目的としている。そのためには、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観の下で、薬科学に関する幅広い学識と高い専門性を備え、それらを統合、応用して創造性の高い研究を遂行する能力を身に付けることが必要である。この目的に基づき、本プログラムでは以下のような学生を求める。

- ・薬科学及び学際的領域で活躍する研究者・教育者・技術者を志す者。
- ・創薬科学、生命科学に関する専門知識を有する者。
- ・研究を通じて、薬科学関連領域の諸課題を解決し、人々の健康と学術研究の進歩に貢献したいという意欲を持つ者。
- ・国内外の研究者に対して研究の内容やその価値を説明、議論できるコミュニケーション力、表現力を持つ者。

【入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）】

多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。また推薦入試、外国人留学生特別入試を実施する。

一般入試

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験、口述試験及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。

外国人留学生特別入試

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験、口述試験及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。

II 一般入試

1 入学者選抜日程の概要

令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学

プログラム	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続(締切日)
先端医科学プログラム	令和7年7月11日(金) ～7月18日(金)	令和7年 8月19日(火)	令和7年 9月2日(火)	(令和7年10月入学)
看護科学プログラム				令和7年9月12日(金)
先端薬科学プログラム				(令和8年4月入学) 令和8年1月21日(水)(予定)

令和8年4月入学（第2回）

プログラム	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続(締切日)
先端医科学プログラム	令和8年1月19日(月) ～1月26日(月)	令和8年 2月20日(金)	令和8年 3月6日(金)	令和8年3月13日(金)(予定)
看護科学プログラム				
先端薬科学プログラム				

(注) 第2回の学生募集は第1回の学生募集の定員充足状況により実施しない場合があります。実施の有無については、令和7年11月頃に本学ウェブサイトで公表します。

2 募集人員

プログラム名	令和8年4月入学 募集人員	令和7年10月入学 募集人員	備 考
先端医科学 プログラム	6人	若干名	募集人員には社会人特別入試及び外国人留学生特別入試の募集人員(若干名)を含みます。
看護科学 プログラム	8人	若干名	看護科学プログラムには、研究者コース, 専門看護師(CNS/がん・母性)コース及び診療看護師(NP)コース※があります。 募集人員には社会人特別入試及び外国人留学生特別入試の募集人員(若干名)を含みます。
先端薬科学 プログラム	32人	若干名	募集人員には外国人留学生特別入試の募集人員(若干名)を含みます。
計	46人	—	各プログラムの募集人員は、概ねの人数です。

※診療看護師(NP)コースは、4月入学のみの受入れとなります。

(注) 入学志願者は、出願前に志望する指導教員と教育・研究に関する方向性等について、必ず相談してください。志望する指導教員が未定の場合は出願できません。

相談の主な目的は、以下のとおりです。

- ・入学後の研究分野の確認
- ・教育・研究等に関する方向性の確認

なお、相談の内容が入試の合否に直接影響することはありません。

3 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者とします。なお、看護科学プログラムの診療看護師(NP)コースに出願する場合は、この要件の他に、5年以上の看護職としての経験があること及び日本国の看護師の免許を有することが必要です。

- (1) 大学を卒業した者及び入学を希望する月の前月末日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者及び入学を希望する月の前月末日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び入学を希望する月の前月末日までに修了見

込みの者

- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び入学を希望する月の前月末日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び入学を希望する月の前月末日までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び入学を希望する月の前月末日までに授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者及び入学を希望する月の前月末日までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、その後に入学者を本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると本研究科において認めたもの
- (10) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時に22歳に達しているもの
- (11) 入学を希望する月の前月末日の時点で大学に3年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したと本研究科が認めた者

（注）出願資格(9)～(11)で出願しようとする者は、事前に出願資格審査を行うので、25ページ「3 出願資格認定申請」を参照し、所定の手続きを行ってください。

4 外部英語試験の利用について

一般入試においては外国語（英語）の筆記試験を行わず、提出された外部英語試験のスコアを100点満点に換算した点数を成績とします。

複数の試験を受験している場合は、換算点の高いものを提出してください。

外部英語試験の種類は、TOEFL-iBT、TOEFL-ITP、TOEIC L&R、TOEIC L&R-IP及びIELTSとします。

なお、利用するスコアは令和5年9月1日以降の試験を受験したものに限りします。

※看護科学プログラムのみ受験日の制限はありません。

スコアの換算方法

・ TOEFL-iBT

70以上 = 100点

70未満の場合

換算点 = $100 \times (\text{TOEFL-iBTのスコア}) / 70$

・ TOEFL-ITP

525以上 = 100点

525未満の場合

$$\text{換算点} = 100 \times \{ (\text{TOEFL-ITPのスコア}) - 310 \} / 215$$

310以下=0点

・ TOEIC L&R, TOEIC L&R-IP

730以上=100点

730未満の場合

$$\text{換算点} = 100 \times (\text{TOEICのスコア}) / 730$$

・ IELTS

6.0以上=100点

6.0未満の場合

$$\text{換算点} = 100 \times \{ (\text{IELTSのスコア}) - 1 \} / 5$$

5 先端医科学プログラム入学者選抜方法

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語(英語)試験(8ページ「4 外部英語試験の利用について」を参照)、口述試験、志望理由書及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価します。

(1) 小論文・適性検査

・ 志望動機、研究計画、先端医科学研究に関する興味や関心、倫理観などについて問います。

(2) 口述試験

・ 小論文・適性検査での解答を踏まえ、志望動機、これまでに学修してきた内容を大学院でどのように活かすのか、研究計画、修了後の希望や社会貢献の予定、等について面接形式で問います。

(3) 試験日程及び試験場

令和8年4月入学(第1回)・令和7年10月入学

月 日(曜)	時 間	試験科目等	試験場
令和7年 8月19日(火)	11:00 ~ 12:00	小論文・適性検査	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷(医薬系)キャンパス
	13:30 ~	口述試験 ※	

令和8年4月入学(第2回)

月 日(曜)	時 間	試験科目等	試験場
令和8年 2月20日(金)	11:00 ~ 12:00	小論文・適性検査	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷(医薬系)キャンパス
	13:30 ~	口述試験 ※	

※口述試験の開始時間については、志願者数によって変更することがあります。変更する場合は、受験票を発行する際にお知らせします。

6 看護科学プログラム入学者選抜方法

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語(英語)試験(8ページ「4 外部英語試験の利用について」を参照。)及び口述試験の成績により、高度な看護実践能力と看護研究方法を修得するための基盤となる基礎的な知識、研究遂行能力等を評価します。

(1) 小論文・適性検査

・ 適性検査として志望する分野に関する基礎的な知識を問います。

(2) 口述試験

・ 大学院入学への志望動機、研究意欲等を問います。

(3) 試験日程及び試験場

令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和7年 8月19日(火)	11:00～12:00	小論文・適性検査	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	13:30～	口述試験 ※	

令和8年4月入学（第2回）

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和8年 2月20日(金)	11:00～12:00	小論文・適性検査	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	13:30～	口述試験 ※	

※口述試験の開始時間については、志願者数によって変更することがあります。変更する場合は、受験票を発行する際にお知らせします。

7 先端薬科学プログラム入学者選抜方法

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験（8ページ「4 外部英語試験の利用について」を参照。）、口述試験及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価します。

(1) 小論文・適性検査

・適性検査として志望する分野に関する基礎的な知識を問います。

(2) 口述試験

・大学院入学への志望動機、研究意欲等を問います。

(3) 試験日程及び試験場

令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和7年 8月19日(火)	11:00～12:00	小論文・適性検査	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	13:30～	口述試験 ※	

令和8年4月入学（第2回）

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和8年 2月20日(金)	11:00～12:00	小論文・適性検査	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	13:30～	口述試験 ※	

※口述試験の開始時間については、志願者数によって変更することがあります。変更する場合は、受験票を発行する際にお知らせします。

Ⅲ 社会人特別入試

1 入学者選抜日程の概要

令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学

プログラム	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続(締切日)
先端医科学プログラム	令和7年7月11日(金) ～7月18日(金)	令和7年 8月19日(火)	令和7年 9月2日(火)	(令和7年10月入学) 令和7年9月12日(金) (令和8年4月入学) 令和8年1月21日(水)(予定)
看護科学プログラム				

令和8年4月入学（第2回）

プログラム	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続(締切日)
先端医科学プログラム	令和8年1月19日(月) ～1月26日(月)	令和8年 2月20日(金)	令和8年 3月6日(金)	令和8年3月13日(金)(予定)
看護科学プログラム				

(注) 第2回の学生募集は第1回の学生募集の定員充足状況により実施しない場合があります。実施の有無については、令和7年11月頃に本学ウェブサイトで公表します。

※先端薬科学プログラム志望者で社会人である者は、一般入試を受験してください。

2 募集人員

プログラム名	募集人員	備 考
先端医科学プログラム	若干名	募集人員は一般入試の募集人員に含みます。
看護科学プログラム	若干名	看護科学プログラムには、研究者コース、専門看護師(CNS/がん・母性)コース及び診療看護師(NP)コース※があります。 募集人員は一般入試の募集人員に含みます。

※診療看護師（NP）コースは、4月入学のみの受入れとなります。

(注) 入学志願者は、出願前に志望する指導教員と教育・研究に関する方向性等について、必ず相談してください。志望する指導教員が未定の場合は出願できません。

相談の主な目的は、以下のとおりです。

- ・入学後の研究分野の確認
- ・教育・研究等に関する方向性の確認

なお、相談の内容が入試の可否に直接影響することはありません。

3 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者で、社会人として3年以上の実務経験及び研究発表等の業務実績を有するものとします。なお、看護科学プログラムの診療看護師(NP)コースに出願する場合は、これらの要件の他に、5年以上の看護職としての経験があること及び日本国の看護師の免許を有することが必要です。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したと

されるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

(6) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者

(7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(8) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)

(9) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、その後に入学させる本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると本研究科において認めたもの

(10) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時に22歳に達しているもの

(注) 出願資格(9)、(10)で出願しようとする者は、事前に出願資格審査を行うので、25ページ「3 出願資格認定申請」を参照し、所定の手続きを行ってください。

4 外部英語試験の利用について

社会人特別入試においては外国語(英語)の筆記試験を行わず、提出された外部英語試験のスコアを100点満点に換算した点数を成績とします。

複数の試験を受験している場合は、換算点の高いものを提出してください。

外部英語試験の種類は、TOEFL-iBT、TOEFL-ITP、TOEIC L&R、TOEIC L&R-IP及びIELTSとします。

なお、利用するスコアは令和5年9月1日以降の試験を受験したものに限りします。

※看護科学プログラムのみ受験日の制限はありません。

スコアの換算方法

・ TOEFL-iBT

70以上=100点

70未満の場合

換算点=100×(TOEFL-iBTのスコア)÷70

・ TOEFL-ITP

525以上=100点

525未満の場合

換算点=100×{(TOEFL-ITPのスコア)-310}÷215

310以下=0点

・ TOEIC L&R, TOEIC L&R-IP

730以上=100点

730未満の場合

換算点=100×(TOEICのスコア)÷730

・ IELTS

6.0以上=100点

6.0未満の場合

換算点=100×{(IELTSのスコア)-1}÷5

5 先端医科学プログラム入学者選抜方法

入学者の選抜は、業績審査、外国語（英語）試験（12ページ「4 外部英語試験の利用について」を参照）、口述試験、志望理由書及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価します。

(1) 口述試験

- ・志望動機、先端医科学研究に関する興味や関心、これまでに学修してきた内容を大学院でどのように活かすのか、研究計画、倫理観、修了後の希望や社会貢献の予定、等について面接形式で問います。

(2) 試験日程及び試験場

令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和7年 8月19日（火）	13：30～	口述試験 ※	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス

令和8年4月入学（第2回）

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和8年 2月20日（金）	13：30～	口述試験 ※	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス

※口述試験の開始時間については、志願者数によって変更することがあります。変更する場合は、受験票を発行する際にお知らせします。

6 看護科学プログラム入学者選抜方法

入学者の選抜は、研究業績審査、外国語（英語）試験（12ページ「4 外部英語試験の利用について」を参照。）及び口述試験の成績により、高度な看護実践能力と看護研究方法を修得するための基盤となる看護実践実績及び（業務）研究実績、研究への関心・遂行能力等を評価します。

(1) 口述試験

- ・大学院入学への志望動機、研究意欲等を問います。

(2) 試験日程及び試験場

令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和7年 8月19日（火）	13：30～	口述試験 ※	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス

令和8年4月入学（第2回）

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和8年 2月20日（金）	13：30～	口述試験 ※	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス

※ 口述試験の開始時間については、志願者数によって変更することがあります。変更する場合は、受験票を発行する際にお知らせします。

IV 外国人留学生特別入試

1 入学者選抜日程の概要

令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学

プログラム	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続(締切日)
先端医科学プログラム	令和7年7月11日(金) ～7月18日(金)	令和7年 8月19日(火)	令和7年 9月2日(火)	(令和7年10月入学) 令和7年9月12日(金) (令和8年4月入学) 令和8年1月21日(水)(予定)
看護科学プログラム				
先端薬科学プログラム				

令和8年4月入学（第2回）

プログラム	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続(締切日)
先端医科学プログラム	令和8年1月19日(月) ～1月26日(月)	令和8年 2月20日(金)	令和8年 3月6日(金)	令和8年3月13日(金)(予定)
看護科学プログラム				
先端薬科学プログラム				

(注) 第2回の学生募集は第1回の学生募集の定員充足状況により実施しない場合があります。実施の有無については、令和7年11月頃に本学ウェブサイトで公表します。

2 募集人員

プログラム名	募集人員	備 考
先端医科学プログラム	若干名	募集人員は一般入試の募集人員に含みます。
看護科学プログラム	若干名	募集人員は一般入試の募集人員に含みます。
先端薬科学プログラム	若干名	募集人員は一般入試の募集人員に含みます。

(注) 入学志願者は、出願前に志望する指導教員と教育・研究に関する方向性等について、必ず相談してください。志望する指導教員が未定の場合は出願できません。

相談の主な目的は、以下のとおりです。

- ・入学後の研究分野の確認
- ・教育・研究等に関する方向性の確認

なお、相談の内容が入試の可否に直接影響することはありません。

3 出願資格

外国籍を有する者で、次の各号のいずれかに該当する者とします。

看護科学プログラムにおいては、日本語で日常会話ができる者とします。

- (1) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び入学を希望する月の前月末日までに修了見込みの者
- (2) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び入学を希望する月の前月末日までに授与される見込みの者
- (3) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時に22歳に達しているもの
- (4) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、その後に入学させる本学大学院

において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると本研究科において認めたもの

(注) 出願資格(3), (4)で出願しようとする者は、事前に出願資格審査を行うので、25ページ「3 出願資格 認定申請」を参照し、所定の手続きを行ってください。

4 外部英語試験の利用について

先端医科学プログラム及び看護科学プログラムにおいては外国語（英語）の筆記試験を行わず、提出された外部英語試験のスコアを100点満点に換算した点数を成績とします。

先端薬科学プログラムにおいては、外部英語試験のスコアを提出した者には外国語(英語)の筆記試験を行わず、提出されたスコアを100点満点に換算した点数を成績とし、外部英語試験のスコアを提出できない者には外国語(英語)の筆記試験を実施します。

複数の試験を受験している場合は、換算点の高いものを提出してください。

外部英語試験の種類は、TOEFL-iBT, TOEFL-ITP, TOEIC L&R, TOEIC L&R-IP及びIELTSとします。

なお、利用するスコアは令和5年9月1日以降の試験を受験したものに限りです。

※看護科学プログラムのみ受験日の制限はありません。

スコアの換算方法

・ TOEFL-iBT

70以上＝100点

70未満の場合

換算点＝ $100 \times (\text{TOEFL-iBTのスコア}) / 70$

・ TOEFL-ITP

525以上＝100点

525未満の場合

換算点＝ $100 \times \{ (\text{TOEFL-ITPのスコア}) - 310 \} / 215$

310以下＝0点

・ TOEIC L&R, TOEIC L&R-IP

730以上＝100点

730未満の場合

換算点＝ $100 \times (\text{TOEICのスコア}) / 730$

・ IELTS

6.0以上＝100点

6.0未満の場合

換算点＝ $100 \times \{ (\text{IELTSのスコア}) - 1 \} / 5$

5 先端医科学プログラム入学者選抜方法

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験（15ページ「4 外部英語試験の利用について」を参照）、口述試験、志望理由書及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価します。

(1) 小論文・適性検査

・ 志望動機、研究計画、先端医科学研究に関する興味や関心、倫理観などについて問います。

(2) 口述試験

・ 小論文・適性検査での解答を踏まえ、志望動機、これまでに学修してきた内容を大学院でどのように活かすのか、研究計画、修了後の希望や社会貢献の予定、等について面接形式で問います。

(3) 試験日程及び試験場

令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学

月 日 (曜)	時 間	試験科目等	試験場
令和7年 8月19日(火)	11:00～12:00	小論文・適性検査	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	13:30～	口述試験 ※	

令和8年4月入学（第2回）

月 日 (曜)	時 間	試験科目等	試験場
令和8年 2月20日(金)	11:00～12:00	小論文・適性検査	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	13:30～	口述試験 ※	

※ 口述試験の開始時間については、志願者数によって変更することがあります。変更する場合は、受験票を発行する際にお知らせします。

6 看護科学プログラム入学者選抜方法

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験（15ページ「4 外部英語試験の利用について」を参照。）及び口述試験の成績により、高度な看護実践能力と看護研究方法を修得するための基盤となる基礎的な知識、研究遂行能力等を評価します。

(1) 小論文・適性検査

・適性検査として志望する分野に関する基礎的な知識を問います。

(2) 口述試験

・大学院入学への志望動機、研究意欲等を問います。

(3) 試験日程及び試験場

令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学

月 日 (曜)	時 間	試験科目等	試験場
令和7年 8月19日(火)	11:00～12:00	小論文・適性検査	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	13:30～	口述試験 ※	

令和8年4月入学（第2回）

月 日 (曜)	時 間	試験科目等	試験場
令和8年 2月20日(金)	11:00～12:00	小論文・適性検査	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	13:30～	口述試験 ※	

※口述試験の開始時間については、志願者数によって変更することがあります。変更する場合は、受験票を発行する際にお知らせします。

7 先端薬科学プログラム入学者選抜方法

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験（15ページ「4 外部英語試験の利用について」を参照。）、口述試験及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価します。

(1) 小論文・適性検査

適性検査として志望する分野に関する基礎的な知識を問います。

(2) 外国語(英語)

4年制学部教育卒業レベルの語学力を問います。

・外部英語試験のスコアを提出した場合は、外国語（英語）試験は課しません。

(3) 口述試験

大学院入学の志望動機、研究意欲等を問います。

(4) 試験日程及び試験場

令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和7年 8月19日(火)	9：30～10：30	外国語(英語)	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	11：00～12：00	小論文・適性検査	
	13：30～	口述試験 ※	

令和8年4月入学（第2回）

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和8年 2月20日(金)	9：30～10：30	外国語(英語)	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	11：00～12：00	小論文・適性検査	
	13：30～	口述試験 ※	

※ 口述試験の開始時間については、志願者数によって変更することがあります。変更する場合は、受験票を発行する際にお知らせします。

V 共通事項

1 出願手続

出願はインターネット出願のみとします。出願手続は、インターネット出願サイトでの出願登録及び検定料の支払いを行った後、出願期間内に必要な書類等を提出することにより完了します。以下の「インターネット出願の流れ」をよく読み、手続を行ってください。

インターネット出願の流れ



事前準備

22 ページを参照してください。

インターネットに接続されたパソコン、プリンターなどを用意してください。
スマートフォン、タブレットをご利用の場合各OSの標準ブラウザが推奨環境となります。
(iOS 12 以上、Android OS 8 以上、iPadOS 13 以上)

必要書類※は、発行まで時間を要する場合があります。早めに準備を始め、
出願前には必ず手元にあるようにしておいてください。

※必要書類…各種証明書、写真など



インターネット出願サイトにアクセス

インターネット
出 願 サイト ▶

<https://e-apply.jp/ds/toyama-gs/>

または、

大学ウェブサイト ▶

<https://www.u-toyama.ac.jp/>

からアクセス



出願はインターネット出願サイトでの登録完了後(STEP2)、検定料を支払い(STEP3)、必要書類を印刷・郵送(STEP4、STEP5)して完了となります。登録しただけでは出願は完了していませんので注意してください。

インターネット出願は24時間可能です。ただし、出願書類は出願期間最終日17時必着です。ゆとりを持った出願を心がけてください。

STEP

1

マイページの登録

画面の手順に従って、必要事項を入力してマイページ登録を行ってください。

なお、マイページの登録がお済みの方は、STEP2に進んでください。



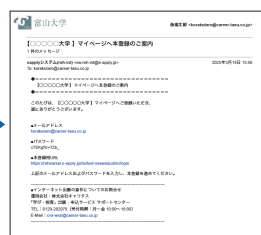
①初めて登録する方は
マイページ登録 から
ログインしてください。



②メールアドレスの登録を行って
仮登録メールを送信 を
クリックしてください。



③ユーザー登録画面から
ログインページ を
クリックしてください。



④登録したメールアドレスに
初期パスワードと
本登録用URLが届きます。
※@e-apply.jpのドメインからのメール
を受信できるように設定してください。



⑤ログイン画面から
登録したメールアドレスと④で
届いた『初期パスワード』にて
ログイン を
クリックしてください。



⑥初期パスワードの変更を
行ってください。



⑦表示された個人情報を入力して
次へ を
クリックしてください。



⑧個人情報を確認して
この内容で登録する を
クリックしてください。



⑨登録完了となります。
マイページへ
をクリックしてください。



⑩上記ページが表示されたら
マイページ登録は完了です。

※出願受付中のみ、**出願手続きを行う** ボタンをクリックすると出願手続に進めます。
登録期間外の場合は、これより先に進めませんので **ログアウト** ボタンをクリックしてください。

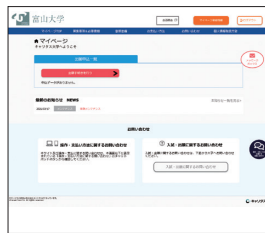
STEP

2



出願内容の登録

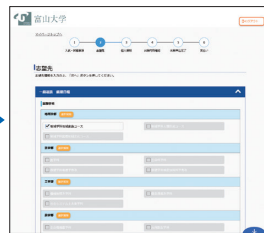
画面の手順や留意事項を必ず確認して、画面に従って必要事項を入力してください。



①マイページログイン後の
出願手続きを行う ボタン
から登録画面へ



②入試選択と留意事項の確認



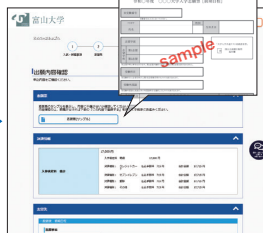
③志望研究科等の選択



④顔写真のアップロード
写真選択へ ボタンをクリックし
写真を選択します。



⑤個人情報(氏名・住所等)の
入力



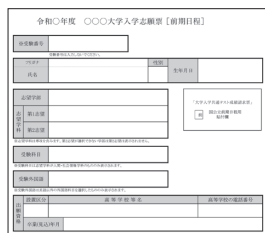
⑥出願内容の確認
志願票(サンプル) ボタンを
クリックすると志願票が確認できます。



⑦申込登録完了
引き続き支払う ボタンを
クリックし検定料のお支払い画面へ。



⑧検定料の支払い方法
●コンビニエンスストア
●ページ対応銀行ATM
●ネットバンキング ●クレジットカード



⑨出願に必要な書類PDF
(イメージ)

※検定料納入後に出力可能となります。

出願受付番号
メモ(12桁)

検定料の支払い方法で「コンビニエンスストア」または「ページ対応銀行ATM」を選択された方は、支払い方法の選択後に表示されるお支払いに必要な番号を下記メモ欄に控えたうえ、通知された「お支払い期限」内にコンビニエンスストアまたはページ対応銀行ATMにてお支払いください。

セブン-イレブンの場合

払込票番号
メモ(13桁)

デイリーヤマザキ、セイコーマートの場合

オンライン決済
番号メモ(11桁)

ローソン、ミニストップ、ファミリーマート、ページ対応銀行ATMの場合

お客様番号
メモ(11桁)

確認番号
メモ(6桁)

収納機関番号
(5桁) 5 8 0 2 1 ※収納機関番号は、ページで
お支払いの際に必要となります。

申込登録完了後に確認メールが送信されます。メールを受信制限している場合は、送信元(@e-apply.jp)からのメール受信を許可してください。 ※確認メールが迷惑フォルダなどに振り分けられる場合がありますので、注意してください。



申込登録完了後は、登録内容の修正・変更ができませんので誤入力のないよう注意してください。ただし、検定料支払い前であれば正しい出願内容で再登録することで、修正が可能です。

※「検定料の支払い方法」でクレジットカードを選択した場合は、出願登録と同時に支払いが完了しますので注意してください。

STEP

3



検定料の支払い

1 クレジットカードでの支払い

出願内容の登録時に選択し、支払いができます。

【ご利用可能なクレジットカード】

VISA、Master、JCB、AMERICAN EXPRESS、MUFGカード、DCカード、UFJカード、NICOSカード



出願登録時に支払い完了

2 ネットバンキングでの支払い

出願登録内容の登録後、ご利用画面からそのまま各金融機関のページへ遷移しますので、画面の指示に従って操作し、お支払いください。

※決済する口座がネットバンキング契約されている必要があります

ウェブで手続き完了

3 コンビニエンスストアでの支払い

出願登録内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、コンビニエンスストアでお支払いください。

●レジで支払い可能

●店頭端末を利用して支払い可能



Loppi



マルチコピー機

あなたも、コンビニ、
FamilyMart



4 ペイジー対応銀行ATMでの支払い

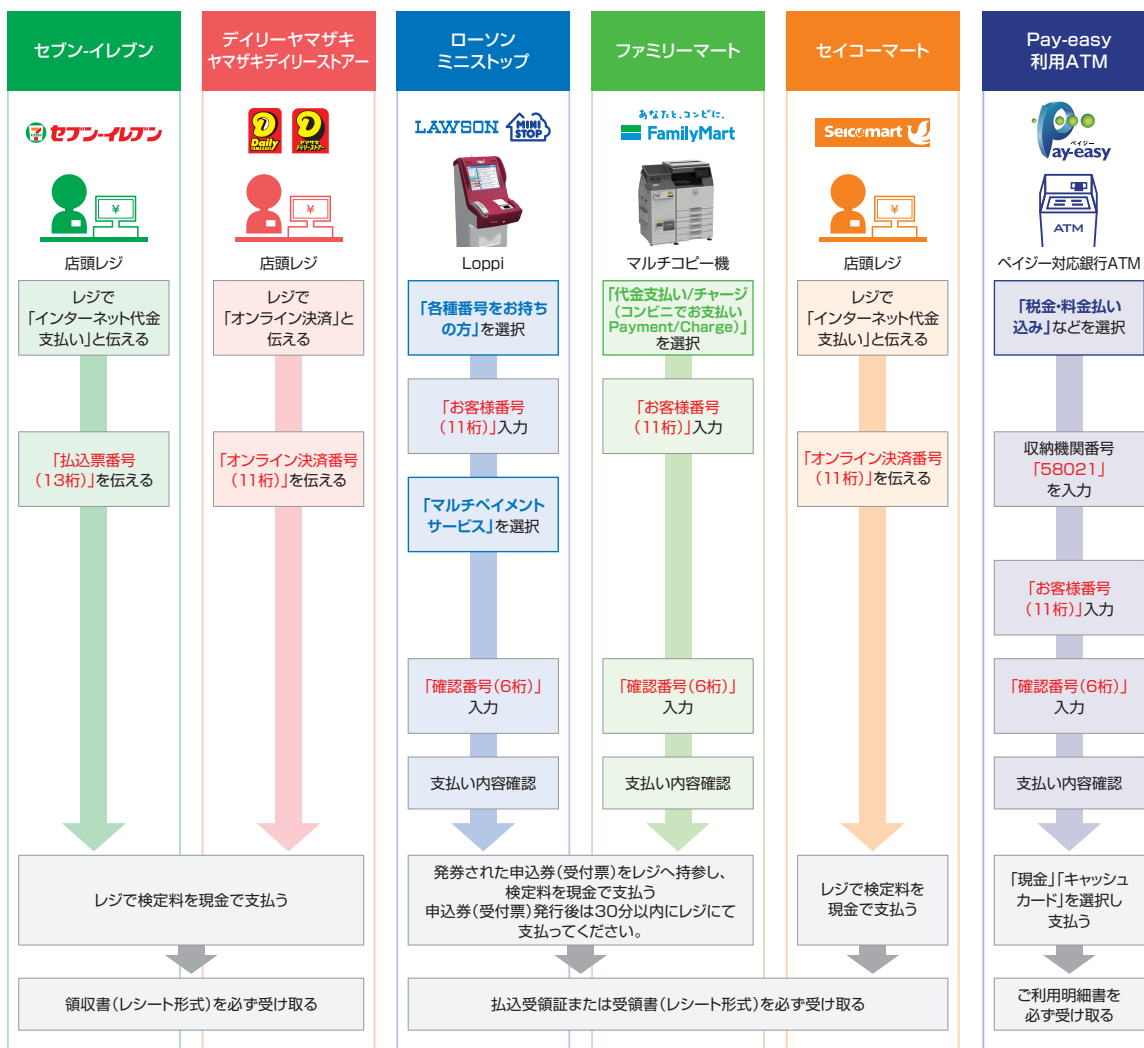
出願登録内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、ペイジー対応銀行ATMにて画面の指示に従って操作のうえお支払いください。



※利用可能な銀行は「支払い方法選択」画面で確認してください。

各コンビニ端末画面・ATMの画面表示に従って必要な情報を入力し、
内容を確認してから検定料を支払ってください。

3 コンビニエンスストア



STEP

4



必要書類の印刷

「出願内容の確認／志願票の印刷」ボタンからログインし、
志願票等必要書類を**A4用紙にカラー印刷**
してください。

志願票PDF(イメージ)

令和3年度富山大学入学志願票(総合型選抜)			
氏名	山田 太郎	性別	男性
生年	2000年	学年	1年次
住所	〒930-0000 富山県富山市1-1-1		
電話番号	03-1234-5678		
メールアドレス	yamada.taro@fuyai.ac.jp		
入学希望学科	工学部 機械工学科		
志願理由	機械工学に興味があり、富山大学の設備が素晴らしいと知り、入学を希望します。		
志願票印刷	印刷		



STEP

5



出願書類の郵送

登録しただけでは出願は完了していませんので注意してください。

出願に必要な書類を出願期間内に郵便局窓口から「書留速達郵便」で郵送してください。

■出願書類

1回の出願登録につき各1部必要です。

出願に必要な書類は、本学生募集要項の23～24ページを参照して準備してください。

<出願書類到着期限>

23ページを参照してください。



宛名シート

出願書類の郵送先は宛名シートに
自動で印字されます。

宛名シートを市販の角形2号封筒(240mm
×332mm)に貼り付けてください。

※一旦受理した検定料・出願書類は、募集要項で明記している理由によるものを除き一切返却しません。

〈出願完了〉

※受理についての電話等による問い合わせには一切応じません。

STEP

6



受験票の印刷

25ページを参照してください。

受験票等発行日以降に、インターネット出願サイトから受験票が印刷
できるようになります。「受験票の印刷」ボタンからログインし、印刷して
ください。

受験票は必ず**A4用紙にカラー印刷**して、試験当日に持参してください。



(1)事前準備

書類等	摘 要
利用環境	PC利用時推奨ブラウザ ・ Microsoft Edge 最新版 ・ Google Chrome 最新版 ・ Mozilla Firefox 最新版 ・ Apple Safari 最新版 ※ ブラウザのタブ機能を使用して、複数のタブで同時に申込操作を行いますと、選択した内容が他のタブに引き継がれてしまう等の不具合が発生する場合がございます。複数タブでの同時申込操作はお控えください。 前画面へ戻る場合はブラウザの「戻る」ボタンは利用せず、画面内に表示されている「戻る」ボタンをご利用ください。 スマートフォン、タブレット利用時推奨ブラウザ・OS ・ iOS 12 以上 ・ Android OS 8 以上 ・ iPadOS 13 以上 ※ 各OSの標準ブラウザが推奨環境となります。 ※ お使いのブラウザで表示が崩れることがございましたら、他のブラウザにてご確認ください。 ※ Androidのスマートフォンからの操作でChromeのPC版からはPDFの表示ができない場合がありますので、モバイル版をご利用ください。
PDF 表示・印刷ソフトウェア	入学志願票(PDF)の表示・印刷にはアドビシステムズ社が配布している Adobe Acrobat Reader（無償）が必要です。
メールアドレス	出願にはメールアドレスが必要となりますので、事前にメールアドレスを用意してください。 なお、ドメイン指定受信を設定されている方は、次のドメインからのメールを受信できるように設定を追加してください。 @e-apply.jp スマートフォン・携帯電話の通信会社から発行されるメールアドレスを登録される方は、各通信会社の迷惑メールフィルターの解除方法に従って、@e-apply.jpからのメールが届くように設定してください。
本人写真	出願にあたって顔写真データ（ファイル形式（jpeg,jpg,png,bmp）、最大10MBまで）を用意してください。 写真の大きさは縦4：横3の比率を推奨します。 写真は本人確認に使用します。 出願前3ヶ月以内に撮影した正面、上半身、無帽、背景なしの写真データ（カラー）を用意してください。 【使用できない写真の例】 不鮮明（ぼやけている、影がある）、無背景でない（背景に風景が写っている、背景に模様がある）、化粧や前髪が目にかかるなど本人確認が困難、写真に加工を施している、現像された写真を再撮影しているなど
プリンター	入学志願票及び受験票（PDF）を出力するため、A4普通紙に印刷することができるカラープリンターが必要です。 印刷用紙(普通紙・PPC用紙・OA共通用紙・コピー用紙等)とともに用意してください。
角2封筒	入学志願票等の出願書類を郵送するため、市販の角形2号封筒（240mm×332mm）を用意してください。入学志願票を印刷した際に出力される「宛名シート」を封筒に貼り付けて使用してください。

(2)出願期間

試 験 区 分		出願期間
令和7年10月入学	一般入試 社会人特別入試 外国人留学生特別入試	令和7年7月11日(金) ～7月18日(金)17時(必着)
令和8年4月入学(第1回)	一般入試 社会人特別入試 外国人留学生特別入試	
令和8年4月入学(第2回)	一般入試 社会人特別入試 外国人留学生特別入試	令和8年1月19日(月) ～1月26日(月)17時(必着)

インターネット出願の登録と検定料の納入は、それぞれの出願期間初日の9時から可能です。

持参する場合は、出願期間中の平日の9時から17時までの間、受け付けます。

なお、郵送の場合も出願締切日17時までに必着とします。ただし、出願締切日の前日以前の消印(日本国内の郵便の消印に限る。)のある書留速達郵便に限り、出願期間以降に到着した場合でも受理します。

(3) 検定料

30,000円

検定料の支払いは、19ページのSTEP2の出願内容の登録完了後に行います。本学の「インターネット出願サイト (<https://e-apply.jp/ds/toyama-gs/>)」から出願し、志願者登録完了後、検定料決済を行ってください。検定料の支払方法は、20ページのSTEP3の検定料の支払いにより確認してください。検定料支払い後に、入学志願票を印刷することが可能になります。

なお、検定料の支払いには、別途手数料が必要です。手数料は支払人負担となります。

また、災害による被災者に対して検定料免除の制度があります。詳細は本学のウェブサイトを参照してください。

一旦、受理した検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。

① 検定料の返還請求ができる場合及び返還額

ア 検定料を払い込んだが富山大学に出願しなかった(出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった)場合〔返還額〕30,000円

イ 検定料を二重に払い込んだ場合〔返還額〕30,000円

ウ 検定料を多く払い込んだ場合〔返還額〕多く払い込んだ額
ただし、返還時の振込手数料は、受取人負担とします。

② 返還請求の方法

別添の「検定料返還請求書」に必要事項を記入し、本学へ郵送してください。

送付先：〒930-8555 富山市五福3190 富山大学財務施設部経理第一課 電話 076 (445) 6053

(4) 出願書類等

志願者は、出願書類を「宛名シート」を貼付した封筒に入れ提出してください。郵送の場合は書留速達郵便(国外から郵送する場合は、EMS等追跡可能な手段)としてください。出願書類の送付は、20ページのSTEP3の検定料の支払いが完了した後に行います。

①インターネット出願サイトから印刷する書類

書 類 等		摘 要
1	入 学 志 願 票	インターネット出願サイトから A4サイズでカラー印刷 してください。 検定料の支払い後に、印刷が可能となります。
2	宛 名 シ ー ト	インターネット出願サイトから A4サイズでカラー印刷 してください。 市販の角形2号封筒(240mm×332mm)に剥がれないように貼付してください。

3	誓 約 書	インターネット出願サイトから A 4 サイズで印刷 してください。 「8 安全保障輸出管理について」(27ページ)を参照してください。
---	-------	---

印字されている内容に誤りがないか必ず確認してください。

②志願者が準備する書類

書 類 等		摘 要
1	志望理由書 (先端医科学プログラム志願者のみ)	本学所定の様式によります。
2	卒業(見込)証明書	出身大学(学部)長が作成したもの(本学学部出身または本学学部卒業見込者は不要)
3	成績証明書	出身大学(学部)長が作成し厳封したもの ただし、偽造・複写防止用紙使用の場合は厳封不要です。
4	受験承認書	他の大学院等に在学中の者又は官公庁、企業等に在職中の者は、 当該大学院研究科長又は所属長の受験承認書を添付してください。 (様式任意)
5	住民票の写し等 (外国人のみ)	現に日本国に在住している外国人は、居住している市町村長又は特別区長の交付する住民票の写し又は在留カードの写し(両面)を添付してください。
6	TOEFL/TOEIC/ IELTS / のスコアシート (写し) (該当者のみ)	下記の試験のいずれか1つのスコアシートの写しを提出してください。 また、出願時にスコアシートが提出できない場合は、下記の試験を受験したこと又は受験予定であることが確認できる書類(受験票の写し等)を提出した上で入学試験当日までにスコアシートの写しを提出してください。 ①TOEFL-iBT 受験者用控えスコアレポート ②TOEFL-ITP スコアレポート ③TOEIC L&R 公式認定証 (Official Score Certificate) ④TOEIC L&R-IP スコアレポート ⑤IELTS 成績証明書 (Test Report Form-TRF) なお、スコアシートは令和5年9月1日※以降の試験を受験したものに限ります。 試験当日に原本確認を行うため、必ず持参してください。 (※看護科学プログラムのみ受験日に制限はありません。)
7	在職期間証明書 (社会人特別入試志願者のみ)	3年以上の実務経験を有することの所属長の証明書(様式任意)
8	業績調書 (社会人特別入試志願者のみ)	次の事項を記載したものを提出してください。(様式任意) 〔ア これまでの業務内容の概要〕400字程度にまとめてください。 〔イ 学会等発表〕すべての報告者名、演題名、学会名、場所、年度を明記し、各内容の要約を100字以内で記してください。 〔ウ 論文等〕すべての著者名、題名、掲載誌、巻、号、ページ、発刊年を明記し、各内容の要約を100字以内で記してください。 〔エ 著書〕すべての著者名、書名、出版社、発刊年を明記するほか、分担の場合は題名を付してください。

(注) (1) 本学所定の様式は本学ウェブサイトよりダウンロードし、A 4 サイズに印刷してください。

(2) 英語以外の外国語で記載されたものについては、日本語訳又は英語訳を添付してください。

2 受験票の印刷

- (1) 受験票は、志願者が郵送した出願書類を本学が受理した後、受験票等発行日以降に、インターネット出願サイト上で印刷ができるようになります。なお、受験票の印刷が可能になりましたら、インターネット出願時に登録した志願者のメールアドレスへ通知します。

受験票等発行日（注）

【令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学】 令和7年8月6日（水）15時（予定）

【令和8年4月入学（第2回）】 令和8年2月12日（木）15時（予定）

（注）受験票等発行日は予定のため、変更になる可能性があります。

- (2) インターネット出願サイトの「ログイン」からマイページにログインします。ログインするためには【メールアドレス・ご自身で設定したパスワード】が必要になります。
- (3) ログイン後、受験票をダウンロードしてください。受験票は、A4用紙にカラー印刷して、必ず試験当日に持参してください。なお、別途受験上の注意事項をメールで通知しますので、必ず事前に熟読してください。

注意事項

- (1) 受験票を印刷後、記載内容を必ず確認してください。出願登録した内容と異なっている場合は、入試に関する問い合わせ先（杉谷地区事務部学務課）へ速やかに連絡してください。
- また、パソコン等の画面上の受験番号と、実際に印刷された受験票の受験番号が、一致していることを必ず確認してください。
- (2) メールが届かない場合でも、インターネット出願サイトにログインして受験票を印刷してください。
- (3) インターネット出願登録した際の受付番号は、受験番号ではありません。試験当日は受付番号での受験はできませんので、必ず受験票を持参してください。
- (4) 試験当日に、スマートフォン等での画面表示による受験票の提示は認めません。必ず印刷した受験票を持参し、試験終了後も大切に保管してください。

3 出願資格認定申請

一般入試の出願資格(9)～(11)、社会人特別入試の出願資格(9)、(10)及び外国人留学生特別入試の出願資格(3)、(4)により出願しようとする者は、事前に個別の出願資格審査を行います。必ず事前に下記に照会を行い、期日までに所定の書類を提出してください。

【照会・提出先】

富山大学 杉谷地区事務部学務課（入試担当）

〒930-0194 富山市杉谷2630番地 電話（076）434-7658

- (1) 出願資格審査に必要とする書類

- ① 出願資格審査申請書（本学所定の様式）
- ② 学業成績証明書

なお、一般入試の出願資格(11)に該当する者は、出願者の所属する学科等の教育課程表も必要です。

- ③ 卒業（見込）証明書
- ④ 住民票の写し（現に日本国に在住している外国人志願者のみ）
- ⑤ 履歴書（本学所定の様式）
- ⑥ 長形3号の返信用封筒（410円分の切手を貼付し、あて名、郵便番号を明記したもの）
- ⑦ その他必要とする書類

※各証明書は、原本を提出してください。写しが提出された場合は受理しません。外国語で記載されたものについては、日本語訳を添付してください。

- (2) 書類提出期限

【令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学】 令和7年7月3日（木）16時まで

【令和8年4月入学（第2回）】 令和8年1月9日（金）16時まで

原則、申請書類は郵送とし、上記期限までに必着とします。

やむを得ず持参する場合は、平日の9時から16時まで受け付けます。期限後の提出は受理しません。

(3) 審査結果の通知

事前審査の結果は、次の期日までに本人宛に通知書を発送します。

【令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学】 令和7年7月10日（木）
【令和8年4月入学（第2回）】 令和8年1月16日（金）

4 合格者発表

次の日時に合格者の受験番号を富山大学ウェブサイトに掲載するとともに、本人に合格通知書を郵送します。なお、電話、E-mail等による可否の問合せには、一切応じません。

【令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学】 令和7年9月2日（火）15時
【令和8年4月入学（第2回）】 令和8年3月6日（金）15時

5 入学手続

入学手続は、次のとおりですが、詳細については合格者に通知します。

- (1) 入学手続 【令和7年10月入学】 令和7年9月12日（金）
【令和8年4月入学（第1回）】 令和8年1月21日（水）（予定）
【令和8年4月入学（第2回）】 令和8年3月13日（金）（予定）

(2) 入学手続に必要な経費等

ア 入学料 282,000円（予定額）

- (注) ① 上記の入学料は予定額であり、入学時に入学料が改定された場合は、改定時から新たな入学料が適用されます。
② 納付された入学料は、いかなる理由があっても返還しません。

イ その他

- ① 入学料の納付が困難と認められる場合には、選考の上、免除・徴収猶予されることがあります。
② 授業料については、入学後に納付することとなります。なお、納付金額・納付方法については入学手続時に案内します。

<参考>令和7年度授業料 年額535,800円

- ③ 独立行政法人日本学生支援機構の奨学金制度があります。
④ 学生教育研究災害傷害保険制度等の経費が別途必要です。

(3) 注意事項

入学手続期間内に入学手続を完了しない者は、入学を辞退したものととして取り扱います。

6 入学志願者の個人情報保護について

本学が保有する個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人富山大学個人情報保護規則」に基づいて取り扱います。

- (1) 出願にあたって知り得た氏名、住所その他個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格発表、③入学手続、④入学者選抜方法等における調査・研究、⑤これらに付随する業務を行うために利用します。
- (2) 出願にあたって知り得た個人情報は、本学入学手続完了者についてのみ、入学前における準備教育及び入学後における①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（健康管理、授業料免除、奨学金申請、就職支援等）、③授業料徴収に関する業務、④統計調査及び分析を行うために利用します。
- (3) 本学合格者についての受験番号、氏名及び住所に限り、課外活動団体並びに本学の関係団体である同窓会、後援会及び生活協同組合からの連絡を行うために利用する場合があります。

注 上記団体からの連絡を希望しない場合は、本学杉谷地区事務部学務課（入試担当）にその旨申し出てください。

- (4) 各種業務での利用にあたっては、一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下「受託業者」という。）において行うことがあります。業務委託にあたり、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、知り得た個人情報の全部または一部を提供しますが、守秘義務を遵守するよう指導します。

7 出願上の注意事項

- (1) 志願者本人が作成する書類において、ChatGPT等の生成AIを利用することは禁止します。
- (2) 出願書類等に不備がある場合には、受理しないことがあります。
- (3) 受理された出願書類等は、いかなる理由があっても返還しません。
- (4) 入学許可の後においても、提出書類の記載と相違する事実が発見された場合は、入学を取り消すことがあります。
- (5) 出願に関する事項その他についての問合せは、下記あてに照会してください。

富山大学 杉谷地区事務部学務課(入試担当) 〒930-0194 富山市杉谷2630番地
電話 (076) 434-7658

8 安全保障輸出管理について

富山大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づいて「国立大学法人富山大学安全保障輸出管理規則」を定めて、技術の提供、貨物の輸出の観点から、安全保障輸出管理について厳格な審査を行っています。規制されている事項に該当する場合は、入学を許可できない場合や希望する教育が受けられない、希望する研究活動に制限がかかる場合がありますので、出願にあたっては注意してください。

【参考】「国立大学法人富山大学安全保障輸出管理規則」

URL <http://www3.u-toyama.ac.jp/soumu/kisoku/pdf/0110401.pdf>

9 障害等のある入学志願者の事前相談

障害等（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱、怪我、発達障害等）があつて、受験上及び修学上特別な配慮を希望する入学志願者は、出願に先立ち、本学杉谷地区事務部学務課へ事前相談を行ってください。

なお、必要に応じて、本学において入学志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面談を行うことがあります。

※事前相談の申請を行った場合でも、本学への出願が義務付けられるわけではありません。

(1) 相談期限

【令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学】 令和7年6月26日（木）16時まで
【令和8年4月入学（第2回）】 令和7年12月26日（金）16時まで

(2) 相談方法

本学ウェブサイトから事前相談申請書をダウンロードするか、下記事項を記載した申請書を作成し、医師の診断書（写しでも可）等を添え、本学杉谷地区事務部学務課(入試担当)へ提出してください。

- ① 氏名・性別・生年月日・住所・電話番号・メールアドレス
- ② 志望のプログラム・受験する入試区分
- ③ 障害等の種類・程度
- ④ 受験の際に特別な配慮を希望する事項
- ⑤ 修学の際に特別な配慮を希望する事項
- ⑥ 出身大学等でとられていた措置（担任教員の所見のあるもの）
- ⑦ 日常生活の状況
- ⑧ その他参考となる事項（相談する際の参考資料があれば、併せて提出してください。例：身体障害者手帳の写し等）

（参考）事前相談申請書掲載ページ

（本学トップページ）→「入試情報」→「障害等のある入学志願者の事前相談」

(3) 相談先

〒930-0194 富山市杉谷2630 富山大学杉谷地区事務部学務課（入試担当）
電話 (076) 434-7658 FAX (076) 434-4545

（注） 日常生活で使用している補聴器、松葉杖、車椅子等を、受験時に使用したい場合も、試験場設定等において配慮が必要となる場合がありますので、必ず事前に相談してください。

事前相談は、障害等のある入学志願者に本学の現状をあらかじめ知っていただき、受験及び修学にあたってより良い方法やあり方を実現するためのもので、障害等のある方の受験や修学を制限するものではありません。

(参考) 国立大学法人富山大学障害を理由とする差別の解消の推進に関する職員対応要領
(本学トップページ) → 「大学紹介」 → 「情報公開」 → 「大学運営に関する情報」を確認してください。

10 入試情報開示

大学院総合医薬学研究科(修士課程・博士前期課程)に係る合否判定基準及び出題意図・解答例等については以下のとおりです。

(1) 合否判定基準

・先端医科学プログラム

① 一般入試

小論文・適性検査150点、外国語(英語)試験100点、口述試験等50点とし、合計300点満点中150点以上を合格とする。

② 社会人特別入試

業績審査150点、外国語(英語)試験100点、口述試験等50点とし、合計300点満点中150点以上を合格とする。

③ 外国人留学生特別入試

小論文・適性検査150点、外国語(英語)試験100点、口述試験等50点とし、合計300点満点中150点以上を合格とする。

※なお、外国語(英語)試験の得点が0点の場合、又は口述試験の得点が30点未満の場合は、不合格とする。

・看護科学プログラム

① 一般入試

小論文・適性検査150点、外国語(英語)試験100点、口述試験等50点とし、合計300点満点中150点以上を合格とする。

② 社会人特別入試

業績審査150点、外国語(英語)試験100点、口述試験等50点とし、合計300点満点中150点以上を合格とする。

③ 外国人留学生特別入試

小論文・適性検査150点、外国語(英語)試験100点、口述試験等50点とし、合計300点満点中150点以上を合格とする。

※なお、外国語(英語)試験の得点が0点の場合は、不合格とする。

・先端薬科学プログラム

① 一般入試

小論文・適性検査150点、外国語(英語)試験100点、口述試験等50点とし、合計300点満点中150点以上を合格とする。

② 外国人留学生特別入試

小論文・適性検査150点、外国語(英語)試験100点、口述試験等50点とし、合計300点満点中150点以上を合格とする。

※なお、外国語(英語)試験の得点が50点未満の場合は、不合格とする。

(2) 出題意図・解答例等

小論文・適性検査：出題意図・解答例等を公表する。

外国語(英語)：出題意図・解答例等を公表する。

口述試験：出題意図を公表する。

(3) その他

① 出題意図・解答例等は本研究科ウェブサイトにより公表する。

② 入学試験の成績開示は行わない。

VI 大学院総合医薬学研究科の概要

総合医薬学研究科は、医学、薬学及び看護学を総合した特色ある教育と研究を礎とし、幅広い知識を基盤とする高い専門性と人間尊重の精神を基本とする豊かな創造力を培い、学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる総合的な判断力を有する高度医療専門職業人又は教育研究者としての人材を育成することを目的としています。

この目的に基づいて、医学、薬学、看護学における普遍的知識・技能、さらに他の教育研究分野と幅広い学問の基盤的能力を修得し、高度な専門的知識と倫理観を基礎に自ら考え行動し、新たな知を創り出す能力を身に付け、総合医薬学研究科が示す学修成果を上げた者に学位を授与します。

なお、令和4年度に改組した全ての研究科及び学環は、4学期制(クォーター制)を採用し、授業科目は、原則として1つのタームを単位として開講します。また、1タームは8週間です。

2学期制と4学期制(クォーター制)の比較表

	学期等の名称			
2学期制	前学期		後学期	
4学期制(クォーター制)	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム

各プログラムの概要

1 先端医科学プログラム

(1) 目的、学位

先端医科学プログラムは医科学の専門知識を修得して医科学研究を実践し、研究成果の発表、研究論文の作成を行った経験を活かし、専門職医療人としてのスキルアップ、専門職企業人として活躍、大学院博士課程へ進学する者を育成することを目的とします。

先端医科学プログラムを修了した者には、修士（医科学）の学位を授与します。

(2) 授業科目及び単位数（令和7年4月現在）

別表Ⅰのとおり

(3) 教育方法の特例

「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例」を適用し、有職者が離職することなく就学できるよう特別措置を行います。

教育方法の特例を受ける者は、昼間における履修のほかに、指導教員と相談して履修計画書を提出した場合、授業及び研究指導を夜間に履修することができます。その時間帯は、原則として月曜日から金曜日の18時10分から21時20分を予定していますが、この時間帯以外にも授業科目によっては、土曜日又は夏季休業等に履修することができます。

なお、授業時間帯は次のとおり予定しています。

I 限	8：45～10：15	II 限	10：30～12：00	III 限	13：00～14：30
IV 限	14：45～16：15	V 限	16：30～18：00		
VI 限	18：10～19：40	VII 限	19：50～21：20		

(4) 課程修了の要件

原則として、2年以上在学し、所定の授業科目（含特別研究等）について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとします。

在学期間に関しては、特に優れた業績を上げたと認める者については、大学院修士課程に1年以上在学すれば足りるものとします。

また、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限（2年）を超えて一定の期間にわたり計画的に課程を履修し、修了することを申し出たときは、その計画的な履修を認めることがあります。

(5) 指導教員研究内容一覧

別表Ⅱ－1のとおり

2 看護科学プログラム

(1) 目的, 学位

現代社会の多様な要請に応えるために、看護学専門領域における研究や学際的知見の成果を総合的に活用して、保健・医療・福祉の分野で活躍できる高度医療専門職業人又は教育研究者を育成することを目的とします。

本プログラムは研究者コース、専門看護師(CNS)コース（母子看護学分野母性看護CNS及びがん看護学がん看護CNS）、診療看護師(NP)コースを設置します。このうち、専門看護師(CNS)コース、診療看護師(NP)コースは看護師経験が必要です。また、診療看護師(NP)コースは少数精鋭教育を行うため、年間2名程度を目安にします。

看護科学プログラムを修了した者には、修士（看護学）の学位を授与します。

(2) 授業科目及び単位数（令和7年4月現在）

別表Ⅰのとおり

(3) 教育方法の特例

「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例」を適用し、有職者が離職することなく就学できるよう特別措置を行います。

教育方法の特例を受ける者は、昼間における履修のほかに、指導教員と相談して履修計画書を提出した場合、授業及び研究指導を夜間に履修することができます。その時間帯は原則として月曜日から金曜日の18時10分から21時20分を予定していますが、この時間帯以外にも授業科目によっては、土曜日又は夏季休業等に履修することができます。

なお、授業時間帯は次のとおり予定しています。

I 限 8 : 45～10 : 15	II 限 10 : 30～12 : 00	III 限 13 : 00～14 : 30
IV 限 14 : 45～16 : 15	V 限 16 : 30～18 : 00	
VI 限 18 : 10～19 : 40	VII 限 19 : 50～21 : 20	

ただし、専門看護師(CNS)コース、診療看護師(NP)コースの実習は、平日昼間に行いますので、ご注意ください。

(4) 課程修了の要件

原則として2年以上在学し、研究者コースにあつては30単位以上(母子看護学を選択した場合は32単位以上)、専門看護師(CNS)コースにあつては母子看護学分野母性看護CNSコース及びがん看護学がん看護CNSコースにあつては54単位以上、診療看護師(NP)コースにあつては、急性期領域：70単位以上、慢性期領域：65単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。

在学期間に関しては、特に優れた業績を上げたと認める者については、大学院博士前期課程に1年以上在学すれば足りるものとします。

また、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限（2年）を超えて最長4年間にわたり計画的に課程を履修し、修了することを申し出たときは、その計画的な履修を認めることがあります。

(5) 指導教員研究内容一覧

別表Ⅱ－2のとおり

3 先端薬科学プログラム

(1) 目的、学位

先端薬科学プログラムでは、幅広い知識を基盤とする高い専門性と、医学的素養を含む豊かな創造力、人間尊重の精神を基本とする総合的な判断力を培い、薬科学関連領域の研究者・教育者・技術者、及び医薬品の開発や普及を担う専門家として、人々の健康と学術研究の進歩に貢献できる人材を育成することを目的とします。

修了した者には、修士（薬科学）の学位を授与します。

(2) 授業科目及び単位数（令和7年4月現在）

別表Ⅰのとおり

(3) 教育方法の特例

「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例」を適用し、有職者が離職することなく就学できるよう特別措置を行います。

教育方法の特例を受ける者は、昼間における履修のほかに、指導教員と相談して履修計画書を提出した場合、授業及び研究指導を夜間に履修することができます。その時間帯は、原則として月曜日から金曜日の18時10分から21時20分を予定していますが、この時間帯以外にも授業科目によっては、土曜日又は夏季休業等に履修することができます。

なお、授業時間帯は次のとおり予定しています。

I 限	8：45～10：15	II 限	10：30～12：00	III 限	13：00～14：30
IV 限	14：45～16：15	V 限	16：30～18：00		
VI 限	18：10～19：40	VII 限	19：50～21：20		

(4) 課程修了の要件

原則として、2年以上在学し、所定の授業科目（含特別研究等）について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとします。

在学期間に関しては、特に優れた業績を上げたと認める者については、大学院博士前期課程に1年以上在学すれば足りるものとします。

また、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限（2年）を超えて一定の期間にわたり計画的に課程を履修し、修了することを申し出たときは、その計画的な履修を認めることがあります。

(5) 指導教員研究内容一覧

別表Ⅱ－3のとおり

別表Ⅰ 授業科目及び単位数

科目区分	授業科目	開設 単位	備考
大学院共通科目	研究倫理	1	メディア
	科学技術と持続可能社会	1	メディア
	地域共生社会特論	1	
	研究者としてのコミュニケーション:基礎と応用	1	メディア
	アート・デザイン思考	1	メディア
	英語論文作成Ⅰ	1	
	英語論文作成Ⅱ	1	
	データサイエンス特論	1	メディア
	大学院生のためのキャリア形成	1	メディア
	知的財産法	1	メディア
研究科 共通科目	総合医薬学	1	メディア
	臨床研究の計画法	1	メディア
	解剖生理病態学序論	1	
	解剖生理病態学特論	1	
	病態薬理学序論	1	メディア
	病態薬理学特論	1	メディア
	心身健康科学	1	メディア
	日本語・日本文化	4	留学生
先端医科学プログラム科目	基礎臨床医科学概論	1	メディア
	社会医学序論	1	メディア
	社会医学特論	1	メディア
	生体防御医学序論	1	メディア
	生体防御医学特論	1	メディア
	分子ゲノム医科学序論	1	メディア
	分子ゲノム医科学特論	1	メディア
	中枢神経遺伝子工学序論	1	メディア
	細胞内シグナル伝達系序論	1	メディア
	中枢神経薬理学序論	1	メディア
	臨床行動科学序論	1	メディア
	臨床行動科学特論	1	メディア
	病態検査医学特論	1	
	放射線医学特論	1	
	感覚・運動・脳病態学序論	1	
	感覚・運動・脳病態学特論	1	
	東洋医学序論	1	
	東洋医学特論	1	
	高度先進医療実践学序論	1	
	高度先進医療実践学特論	1	
	救急蘇生学特論	1	メディア
	災害危機管理学特論	1	
	先端医科学特別研究	10	

看護科学プログラム科目	プログラム共通科目	A群共通科目	看護研究	2	メディア
			看護倫理	2	
			コンサルテーション論	2	
			看護管理論	2	
			看護教育論	2	
			看護理論	2	
			看護政策論	2	
		B群共通科目	病態生理学Ⅰ	1	メディア
			フィジカルアセスメントⅠ	2	メディア
			臨床推論Ⅰ	2	
	研究者コース	看護ケアサイエンス	救急看護演習	1	
			健康生活のための統計分析	1	
			看護ケアサイエンス学特論Ⅰ	2	
			看護ケアサイエンス学特論Ⅱ	2	
			看護ケアサイエンス学演習Ⅰ	4	
			看護ケアサイエンス学演習Ⅱ	4	
			看護ケアサイエンス学特別研究	8	
			がん看護基礎特論	2	
		母子看護学	母性看護学特論Ⅰ	2	
			母性看護学特論Ⅱ	2	
			小児看護学特論Ⅰ	2	
			小児看護学特論Ⅱ	2	
			母子看護学演習	4	
			母子看護学特別研究	8	
		地域看護学	地域看護学特論Ⅰ	2	メディア メディア
			地域看護学特論Ⅱ	2	
			地域看護学演習Ⅰ	4	
			地域看護学演習Ⅱ	4	
			地域看護学特別研究	8	
	CNSコース	がん看護学分野がん看護	がん看護学特論Ⅰ(病態生理)	2	
			がん看護学特論Ⅱ(援助論)	2	
			がん看護学特論Ⅲ(がんリハビリテーション看護論)	2	
			がん看護実践演習Ⅰ(診断～手術後までの患者のリハビリテーション)	2	
			がん看護実践演習Ⅱ(薬物療法・放射線療法をうける患者のリハビリテーション)	2	
			がん看護実践演習Ⅲ(緩和ケア・在宅療養中の患者のリハビリテーション)	2	
			がん看護学実習Ⅰ	2	
			がん看護学実習Ⅱ	2	
			がん看護学実習Ⅲ	2	
			がん看護学実習Ⅳ	4	
			がん看護実践特別研究	8	
		母子看護学分野母性看護	母性看護学特論Ⅲ	2	
			周産期看護実践演習Ⅰ	2	
			周産期看護実践演習Ⅱ	2	
			周産期看護実践演習Ⅲ	2	
			周産期看護実践演習Ⅳ	2	
			周産期看護実習Ⅰ	4	
			周産期看護実習Ⅱ	4	
			周産期看護実習Ⅲ	2	

看護科学プログラム科目	診療看護師（NP）コース	NP基盤科目	病態生理学Ⅱ	1	メディア
			臨床推論Ⅱ	2	メディア
			フィジカルアセスメントⅡ	2	メディア
			臨床薬理学	2	メディア
			疾病・臨床病態概論	4	メディア
			アドバンスプラクティス基礎特論	2	メディア
			アドバンスプラクティス基礎実習Ⅰ	1	
			アドバンスプラクティス基礎実習Ⅱ	1	
			医療安全学	1	メディア
		NP専門科目	アドバンスプラクティスⅠ	9	
			アドバンスプラクティスⅡ	6	
			アドバンスプラクティスⅢ	2	
			アドバンスプラクティス実習Ⅰ	6	
			アドバンスプラクティス実習Ⅱ	3	
			アドバンスプラクティス実習Ⅲ	3	
			アドバンスプラクティス総合実習	4	
			アドバンスプラクティス実践課題研究	5	
		NP特別科目	プライマリ・ケア特論	2	
			クリティカル・ケア特論	2	
先端薬科学プログラム科目			薬学経済序論	1	メディア
			分子化学序論	1	
			生物物理学序論	1	メディア
			薬理薬剤学序論	1	メディア
			分子細胞生物学序論	1	メディア
			応用天然物化学序論	1	メディア
			応用和漢医薬学序論	1	メディア
			分子化学特論	1	メディア
			分子設計学特論	1	メディア
			生物物理学特論	1	メディア
			薬理学特論	1	メディア
			薬物動態学特論	1	メディア
			分子生理学特論	1	メディア
			遺伝子応用分析学特論	1	メディア
			分子細胞生物学特論	1	メディア
			応用天然物化学特論	1	メディア
			先端薬科学海外特論	4	
			薬剤学演習	2	
			応用薬理学演習	2	
			生体認識化学演習	2	
			がん細胞生物学演習	2	
			薬化学演習	2	
			薬品製造学演習	2	
			分子神経生物学演習	2	
			遺伝情報制御学演習	2	
			分子細胞機能学演習	2	

	薬用生物資源学演習	2	
	分子合成化学演習	2	
	生体界面化学演習	2	
	構造生物学演習	2	
	薬物生理学演習	2	
	医療薬学演習	2	
	植物機能科学演習	2	
	病態制御薬理学演習	2	
	医薬品安全性学演習	2	
	薬物治療学演習	2	
	実践薬学演習	2	
	臨床薬品作用学演習	2	
	臨床薬剤学演習	2	
	製剤設計学演習	2	
	医療AI・データ科学演習	2	
	資源科学演習	2	
	天然物創薬学演習	2	
	神経機能学演習	2	
	生体防御学演習	2	
	複雑系解析学演習	2	
	未病学演習	2	
	漢方診断学演習	2	
	生物学演習	2	
	ゲノム機能解析演習	2	
	薬科学特別研究	10	

※備考欄の「メディア」は富山大学における多様なメディアを高度に利用して行う授業に関する要項第2条で規定するメディア授業科目を示す。

別表Ⅱ－1 先端医科学プログラム 指導教員研究内容一覧

分野名 教員名 連絡先	研究内容
解剖学 教授 一條 裕之 ichijo@med	in vivo研究とin silico研究の利点と特異性を利用して、情動を調節する神経回路の経験に依存した改変と行動の変容の神経基盤と、生得的な防御行動の機能を計算論的に解析し神経基盤の進化を研究します。
生理学 教授 田村 了以 (令和8年3月退職予定) rtamura@med	21世紀は脳科学の時代であり、私たち人間の「こころ」の問題をも科学的に解明することが可能になりつつある。本講座では、心の働きの中でも学習や記憶に関する脳内メカニズムを明らかにすることを目的に研究を進めている。そのため私たちは、実験動物（サルやラット）を用い、これら動物が学習・記憶課題を遂行しているときやその後の睡眠中に神経活動を記録してその活動様式を解析し、過去に体験したこと（情報）の符号化、貯蔵、および検索が脳内のどこで、どのようにして起こるのかを追求している。
生理学 教授 西丸 広史 nishimar@med	われわれの日常生活において脳が扱う情報量は、毎秒100億ビットにも達すると言われている。ヒトの脳内には、このような膨大な情報のリアルタイム処理を可能にする超並列的な情報処理システム（ニューラルネットワーク）が存在する。この作用原理を解明することは、ヒトの脳に関する理解を深めるとともに現代の情報化社会に大いに貢献すると考えられる。当講座では、脳における外界刺激の感覚認知機構（入力系）、及び感覚認知、記憶、意思決定、運動制御に基づいて行動を遂行する行動発現機構（出力系）など一連の脳の高次機能について神経生理学的並びに認知心理学的研究を行い、脳の神経情報処理機構や原理を明らかにすることを目的としている。
生化学 教授 井ノ口 馨 inokuchi@med	脳は睡眠中や休息時にも活動を続けていること、すなわちアイドリング状態であることが明らかになってきた。脳のアイドリング活動は、従来考えられていた以上に様々な重要な機能を持っていると想定される。当講座では、最先端の神経活動計測・操作テクニックを駆使して、従来アプローチ不可能であった「アイドリング中の脳活動の種々の機能を明らかにし、脳機能に占めるアイドリング活動の位置づけを明確化する」ことを目的とした研究を展開している。
システム機能形態学 教授 伊藤 哲史 itot@med	私達は世界のありのままの姿を感じ取っているのではなく、環境から私達の生存に重要である情報を選び取り、意識下・意識上でさらなる選別を行ったものを知覚している。この生存に重要な情報の選別のために、動物は置かれた環境に最適化した感覚器官や神経回路を有している。本研究室は感覚の中でも特に聴覚に注目して、環境音から動物にとって意味のある音を検出し、それを認知するに至るメカニズムを研究している。様々な実験系を用いることで、知覚、特に聴覚系の脳内符号化や認知のメカニズムの詳細を機能と構造の両面から解明する。
病理学 教授 平林 健一 hiraken@med	病理学は疾患の病態解明や診断を行う分野である。その対象疾患は全身にわたり、悪性腫瘍だけでなく炎症性疾患など多岐にわたる。これまで病理学はマクロおよびミクロの形態評価が中心であったが、分子学的診断の導入や網羅的遺伝子解析の導入により病理学は大きく変化しつつある。本講座では、疾患の機能解明や新たな疾患概念の確立を目指し、分子学的手法を含めた臨床および基礎研究を行っている。特に胆道・膵臓疾患を対象とした研究を行っている。
病理学 教授 高田 尚良 ktakata@med	病理学は疾病を分類・記載し、その性状を究め、病因及び成り立ち方を研究する学問である。特に個々の臓器・組織に起こっている形態学的な変化について“何故このような形態変化が起こっているのか？”ということを考え、疾患の成立や進行過程のメカニズムを解明するところに病理学研究の醍醐味があると考えている。当講座では血液腫瘍を中心とした悪性腫瘍の疾患発生のメカニズムについて形態学的な観点のみならず分子生物学的・遺伝子学的などの様々な観点からアプローチする研究を行っている。

分野名 教員名 連絡先	研究内容
免疫学 教授 小林 栄治 ekoba@med	免疫は感染防御やがんの制御の最前線で戦う生体システムである。この免疫のシステムには一次防衛に働く自然免疫システムと二次防衛に働く獲得免疫システムがある。自然免疫では、白血球やNK細胞などの免疫細胞が、獲得免疫ではBリンパ球やTリンパ球という免疫細胞が主要な働きをしている。免疫学講座ではヒトやマウスのBリンパ球やTリンパ球について、単一細胞レベルでの解析を中心に基礎研究を行い、その成果を臨床に応用することを目指し研究を行っている。また、新たながん免疫療法の開発や、これまで明らかになっていない免疫疾患メカニズム解明のための新しい解析技術の開発を行っている。
微生物学 教授 森永 芳智 morinaga@med	私たちに常在する細菌叢が、私たちの健康や病気に深くかかわっていることがわかってきている。一方で微生物のなかには、病原性があり感染症を起こすものもいる。培養技術と遺伝子学的解析手法を用いて、細菌叢や病原性細菌・ウイルスを捉え、宿主も含めた異なる生物間のネットワークの影響で形成される健康と疾患を理解する。
薬理学 教授 中川 崇 nakagawa@med	近年、数多くの寿命関連遺伝子・老化関連遺伝子が報告されているが、その多くはエネルギー代謝に関連するものであり、様々な栄養センシング機構が老化に重要な役割を果たしていることが報告されている。NAD(Nicotinamide adenine dinucleotide)は、レドックス反応を司る補酵素であり、生体内のエネルギー状態をセンシングし、エネルギー代謝やストレス応答、DNA修復などを制御することで生体の恒常性維持に関与している。加齢に伴うNAD代謝の破綻は、生理的老化やがん、生活習慣病、アルツハイマー病といった老化関連疾患の発症に深く関わっている。我々の研究室では、質量分析計を用いたメタボロミクス解析や、遺伝子組み換えマウスの解析を組み合わせることで、in vitro からin vivo まで幅広く研究を行い、NAD代謝による老化制御機構の解明ならびに、NAD代謝を標的とした抗老化薬・治療法の開発を目指している。また、メタボロミクスを用いることで、新たな側面から和漢薬の薬理作用解明を目指した研究も行っている。
疫学・健康政策学 教授 関根 道和 sekine@med	疫学・健康政策学講座は、疫学研究にもとづく健康政策への貢献をミッションとした講座である。ミッション達成のための疫学研究を実施している。日本公務員研究は、地方公務員約5千名を対象とした社会経済的要因や心理社会的ストレス、ワーク・ライフ・バランスと健康に関する縦断研究で、ロンドン大学ユニバーシティカレッジの英国公務員研究、ヘルシンキ大学のフィンランド公務員研究との国際共同研究である。富山出生コホート研究は、平成元年度生まれの約1万人を対象とした縦断研究である。また、文部科学省スーパー食育スクール事業では、約2千名の小学生を対象とした研究である。両研究では、小児期からの総合的な健康づくりのためのエビデンスを集積している。富山認知症研究は、65歳以上の高齢者約千人を対象とした高齢者疫学研究である。 大学院生は、講座が行っている調査研究に参加し、研究の計画、実施、分析、論文執筆までの一連の研究作法を学ぶ。現在の主な研究テーマは下記の通りである。 (1) 心理社会的ストレスやワーク・ライフ・バランス、生活習慣、性格傾向と健康に関する国際比較研究 (2) 社会経済的要因による健康格差に関する国際比較研究 (3) 小児期からの生活習慣病予防に関する研究 (4) 認知症の予防医学的研究
法医学 教授 西田 尚樹 nishida@med	当講座の研究は、実際の法医学解剖例から生じた鑑定、診断上の問題点を様々な手法を用いて解決し、実務能力の向上につなげることが基本であるが、さらに、その成果を法医学領域に留まらず、臨床医学を始めとした他分野の発展にフィードバックさせるような視点で研究することを特徴としている。また、社会医学講座として、自殺予防に関する提言や、本邦の剖検率の向上やシステムの改善を目指した調査、研究も行い、地域医療や公衆衛生上の諸問題の解決を側面から支援するような研究を行うことを目指している。

分野名 教員名 連絡先	研究内容
医学教育学 教授 高村 昭輝 akiteru@med	認知心理学, 行動科学などを基礎とした教育学, 医療者教育学の基本理論を学び, それらを用いた教育カリキュラム開発, 学習者評価, 教授法などを研究する。また, 加えて, 総合診療, 地域包括ケア, 多職種連携などプライマリ・ケア領域におけるシステム研究も行う。
分子神経科学 教授 森 寿 (令和8年3月退職予定) hmori@med	脳は感覚情報の処理と運動の制御を行い, 思考や行動などを担う器官であり人格の源である。脳機能の物質的基礎となる分子とその機能を明らかにすることが, 正常な脳機能と脳病態の理解, 診断や治療法の開発に必要である。当研究分野では分子生物学的手法を用いて脳機能の解明に取り組み, 特に神経伝達物質受容体やシナプス形成因子を中心とした遺伝子操作マウスを作製し, 記憶・学習・情動, 社会性等の分子機構を明らかにする研究を行う。
臨床心理学・ 認知神経科学 教授 袴田 優子 hakamata@med	うつ病や不安障害などのストレス関連精神疾患を抱える患者やその発症リスクを有する健常者にみとめられる認知処理上の問題の発生機序について明らかにするとともに, こうした問題の軽減・改善に有効な心理学的な予防・治療法の開発を行っている。認知処理上の問題はしばしば認知バイアスと呼ばれるが, このうち主に注意や記憶(符号化や固定化, 検索を含む)に関するものを扱う。
遺伝子発現制御学 准教授 甲斐田 大輔 kaida@med	DNAの情報を元にタンパク質を産生する遺伝子発現機構は必須の機構であり, その異常はがんや神経疾患などさまざまな疾患を引き起こす。本講座では, 遺伝子発現機能の中でも特にmRNAスプライシングに関するメカニズムを解明する研究を通してこれらの疾患の原因究明, 治療法の開発を目指している。また, 種々の低分子化合物を用いることで, スプライシング阻害剤を基盤とした抗がん剤の開発や, アルツハイマー病をはじめとした様々な老化関連疾患を抑制できる薬剤の開発を目指している。
内科学(代謝・免疫・呼吸器病学) 教授 加藤 将 ktmasaru@med	・高脂肪食・運動不足のエネルギー過剰の生活習慣により, 肥満症, 2型糖尿病患者が増加しており, その発症の予防と治療の開発が重要な課題となっている。脂肪組織リモデリング, 骨格筋の機能調節, 腸内細菌叢への介入などの観点で病態の解明に取り組んでいる。 ・関節リウマチや膠原病の発症メカニズムの研究の一環として自己抗体の研究を行っている。 ・肺癌の治療は, 分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬が登場し, 急速な進歩を遂げている。分子生物学的アプローチ及びリアルワールドデータの解析により, 肺癌の治療戦略のエビデンスの構築を行なう。
内科学(循環器・腎臓内科学) 教授 絹川 弘一郎 kinugawa@med	循環器疾患は我が国の高齢化に伴い, 年々増加の一途をたどっている。長年の生活習慣病から発症する動脈硬化性疾患による虚血性心疾患, 高齢化に伴う弁膜疾患, さまざまな心疾患の終末像とも言える心不全, それらを修飾する不整脈, などの病態解明と予防を含めた治療戦略の開発は今後喫緊の課題である。 ・また, 腎疾患は心腎連関といわれるほど循環器疾患とのつながりが深く, 一次的に腎臓病を発症する腎炎はもとより心不全により2次的に慢性腎臓病となる機序の研究も大変重要である。
内科学(消化器内科学) 教授 安田 一郎 yasudaic@med	消化器疾患は多彩であり, その頻度も高い。日本の部位別癌死亡数は肺, 大腸, 胃, 膵, 肝の順であり, 第2位~5位までが消化器癌である。また, 悪性腫瘍以外にも良性腫瘍, 炎症性疾患, 感染症, 機能性障害, 結石など様々な病態が存在する。我々の講座では, こうした多彩な消化器疾患の病態解明および診断・治療に結びつく研究を基礎, 臨床の両面から行っている。
内科学(血液内科学) 教授 佐藤 勉 tsutomus@med	高齢化社会の到来に伴い, 造血器腫瘍の罹患患者は増加の一途を辿っている。そもそも造血器腫瘍は抗がん剤に対する感受性が高いため, 抗がん剤治療の進歩は血液内科学の進歩とともにあった。より多くの抗がん剤を使えば疾患を治癒に導けるという極端な発想は造血幹細胞移植にたどり着いた。一方で, その治療法の限界は副作用と抗がん剤耐性にあった。昨今の潮流は分子標的療法と抗がん剤副作用の軽減にある。このような社会的なニーズに応えるべく, 本講座では実臨床に直結した研究活動を展開している。

分野名 教員名 連絡先	研究内容
内科学（炎症性腸疾患） 特命教授 渡邊 憲治 kenjiw@med	炎症性腸疾患診療の最適化に関する検討
感染症学 教授 山本 善裕 yamamoto@med	多様な微生物が宿主に感染することにより起こる感染症は、日常臨床の中で最も遭遇することの多い疾病である。また、感染症は軽症例から致死的な症例、局所感染から全身感染症まで幅広い領域をカバーすることが必要である。感染症を制圧するためには、「微生物学」「感染症学」「感染制御学」の全てを理解し、実践していくことが重要である。当講座では感染症に関して、あらゆる方面から多角的に研究を行っている。
皮膚科学 教授 清水 忠道 （令和9年3月退職予定） shimizut@med	皮膚粘膜は人体の最外層を覆い、人体のホメオスターシス維持に重要な役割を演じる器官である。外界（人体をとりまく環境）と内界（人体の内部環境）を境している皮膚は、外界の変化に対応し様々な変化を生じる。 外界・内界の変化は皮膚で捉えられ、炎症、免疫反応、創傷治癒反応、メラニン形成を生じ、多様な変化に対応する。また、内界で生じた変化を皮膚は多様に表現する。皮膚科学は、皮膚粘膜が持つこれらの機能を生化学的、分子生物学的に解析し、皮膚粘膜の病的状態を、外界→皮膚←内界の表現をして捉え、解明する臨床研究を進めている。
小児科学 教授 今井 千速 chihaya@med	小児・思春期における難治性疾患の新しい診断法や治療法の開発に取り組んでいる。臨床現場での問題点の解決を目指した基礎研究や臨床研究を行っている。小児科学は幅広い疾患を取り扱っており、血液・腫瘍領域、免疫・アレルギー領域、循環器領域、新生児領域、救急・集中治療領域、腎・膠原病領域、小児神経領域における基礎研究および臨床研究が行われている。
新生児学 教授 吉田 丈俊 ytake@med	・エコチルデータを用いて早産のリスク因子を解析する。 ・発達遅延ハイリスク児の早期介入について学ぶ ・頭蓋骨変形に対する疫学調査を行う
神経精神医学 教授 高橋 努 tsutomu@med	精神的に健康な状態は、脳の働きのバランスが維持されることによって支えられている。近年の画像診断技術などの進歩により、精神現象の背景にある脳の構造や機能を、非侵襲的な方法で捉えられるようになってきた。精神疾患についての知見も増加しているが、なお未解明な部分が多い。本講座では、統合失調症などの精神医学領域における重要疾患の病態生理を解明し、客観的な早期診断法と、より有効な早期治療法を開発することにより、長期予後の改善を図ることを目標に、臨床的・基礎的研究を進めている。
放射線医学 教授 野口 京 （令和9年3月退職予定） kyo@med	医療画像の急速な発展により、高分解能の形態画像のみならず機能画像を得ることができる。機能画像にて生体の機能や代謝を評価することができる。我々は、高分解能形態画像および機能画像を組み合わせることで、新しい早期画像診断法を開発することを目指している。
放射線腫瘍学 教授 齋藤 淳一 junsaito@med	癌治療に関係する物理的、化学的増感及びこれらによる細胞ストレス応答について研究している。具体的には、放射線、超音波、ハイパーサーミア、プラズマ及び制癌剤を用い、アポトーシスをはじめとする種々の細胞死を標的とした増感分子機構の解明を行っている。さらに、物理的手法による遺伝子導入や遺伝子発現制御に関する研究を行っている。
外科学(呼吸・循環・総合外科) 教授 芳村 直樹 ynaoki@med	心臓血管、呼吸器疾患の外科治療では臨床に結びつく研究が重要である。高齢化社会を迎え冠動脈疾患、動脈瘤、末梢動脈疾患が増加し、ロボット技術、細胞再生治療を駆使した低侵襲術式の開発が急務となっている。一方、新生児乳児を中心とする小児心臓手術では手術の安全性とともに術後遠隔期不整脈などの管理が要求される。体に優しい心臓血管外科先端医療の実現を目指す。

分野名 教員名 連絡先	研究内容
外科学(呼吸・循環・総合外科) 教授 土谷 智史 tsuchiya@med	工学部生体システム医工学講座との共同研究により、肺の臓器再生を目指す。ラット脱細胞化組織骨格を再細胞化する臓器再生法により、疾患モデルを作成する。研究分野は、幹細胞、細胞接着、メカニカルストレス、癌研究を網羅する。 (参照：https://www.organengineering.com/)
外科学(消化器・腫瘍・総合外科学) 教授 藤井 努 fjt@med	当部門では臨床経験から生まれた疑問を解決し、さらにその成果を臨床の場にフィードバックさせることを念頭においた実践的な研究を行っている。消化器癌（食道、胃、大腸、GISTなど）、肝胆膵領域癌、乳腺・内分泌腫瘍におけるmiRNA、CTCなどを用いた新規予後判定マーカーの同定と解析、各臓器手術に対する新しい手術法・手術器具の開発、漢方薬や癌特異的CTLを用いた新しい癌治療法の研究など、外科学の未来を見据えた新しい研究に挑戦している。
脳神経外科学 教授 黒田 敏 (令和9年3月退職予定) skuroda@med	脳脊髄神経疾患の治療では、疾病の根治生に加え脳神経機能の温存が目標となる。目的達成のためには、中枢神経系発生のプロセスや再生へのアプローチ、脳高次機能の生理的病理的解明など、未解決の研究課題が山積している。脳神経外科学講座では、動物モデルを用いた脳形成に関する基礎研究、臨床例の症状・検査所見に基づく脳高次機能解析、脳機能温存のための手術機器の開発と臨床研究などを行い、脳に優しい先端的医療の実現を目指している。
整形外科 教授 川口 善治 zenji@med	運動器は生命の質の維持に直結した器官である。整形外科講座では、この運動器の各種障害や破綻のメカニズム基盤を解析するとともに、障害された運動器の再建方法の確立、さらに運動器の修復と再生に向けた研究を行っている。運動器学の中で主に扱う領域は脊椎脊髄病学、関節病学、骨軟部腫瘍学である。
産科婦人科学 教授 中島 彰俊 akinaka@med	妊娠は性ホルモン、サイトカイン等の巧妙なバランスにより調節されている。異物である胚（胎児）と母体は巧妙にクロストークして妊娠が成立するが、そのバランスの崩れは妊娠中の様々な異常を引き起こす。産科婦人科学講座では、卵胞発育から、妊娠初期における流産、および妊娠中後期の胎盤形成不全に起因する妊娠高血圧症候群、早産（胎盤への感染を中心に）について研究を行っている。特に、オートファジー（細胞内恒常性維持機構）および母児間免疫に注目した研究を行い、ヒト検体を用いた診断法を“bench-to-bedside”に実践できる取り組みを行っている。 また、婦人科悪性腫瘍学では、子宮体癌におけるマイクロサテライト検査high/not-high腫瘍を、末梢血にて診断する方法の開発や、婦人科癌におけるオートファジー制御機構の解明、治療法の開発に取り組んでいる。
眼科学 教授 林 篤志 ahayashi@med	眼科は人間の生活の質にとって非常に重要な視覚を担う感覚器官を研究する分野である。眼球は、他臓器と異なる特徴をもち、独自の研究が必要である。当講座では斜視などにおけるアイトラッカーを用いた眼球運動の定量的解析、MRI画像を用いた眼窩疾患の治療効果の評価、網膜虚血再灌流障害モデルにおける神経保護薬の研究などを行っている。また、乾燥羊膜の眼科臨床へのさらなる応用を目指した研究も行っており、眼科臨床に直結した研究を行っている。
耳鼻咽喉科頭頸部外科学 教授 森田 由香 yukam@med	耳鼻咽喉科頭頸部外科学は人らしく生きるために必要な感覚器と生命維持に重要な呼吸・嚥下・睡眠に関わる疾患を取り扱っている。また頭頸部領域に発生するすべての悪性腫瘍に対してその機能温存も考慮しながらの治療を行う必要がある。当講座では、きこえ、バランスを中心とした感覚器と脳高次機能の関係、難治性中耳疾患の診断・治療方法の確立、QOLを重視した鼻副鼻腔疾患の手術治療の開発などを行っている。また、頭頸部癌治療に関しては、機能温存を目指した手術方法の開発の他、適切な化学療法を選択に関するバイオマーカーの探索など臨床に直結した研究を行っている。

分野名 教員名 連絡先	研究内容
泌尿器科学 教授 北村 寛 hkitamur@med	腎泌尿器科学では泌尿器科疾患に対する診断および治療の向上を目的とした基礎研究を行っている。 特に泌尿器癌、排尿機能、男性不妊、性機能障害、腎移植などの研究テーマが主体となっている。
麻酔科学 教授 高澤 知規 takazawt@med	麻酔科学は手術中に加わる侵襲からどのように患者を守るかという課題を解決するために発展してきた。そのなかで麻酔薬や鎮痛薬の開発や、そうした薬を効果的に投与するための工夫がなされた。バイタルサインをモニタリングする機器の進歩によって麻酔科医は患者の呼吸・循環動態を把握できるようになった。近年では脳波計や筋弛緩モニターを含めたクローズドループシステムによって自動的に麻酔薬を制御することも可能になった。その一方で、手術を受ける患者の高齢化が進んでおり、術前から併存疾患をかかえた患者の割合が増加している。術中のみならず術後にも厳密な呼吸・循環管理が必要な患者が増えているため麻酔科医の活躍範囲は手術室外に広がりつつある。そうした状況を踏まえ、当講座では、合併症の少ない麻酔や最適な術後管理の方法の研究開発を行っている。
総合口腔科学 教授 山田 慎一 shinshin@med	口腔には多くの機能があり、ひとが生きていくために重要な役割を果たしている。また、口腔細菌や口腔機能と多くの疾患との関連も明らかになってきており、口腔科学に重要性が認識されている。しかしながら、科学的根拠に乏しい一面もあり、健康余命の延伸に寄与する研究を行い、科学的根拠の構築を図っています。 ・AIを用いた口腔疾患の病理診断および画像診断に関する研究 ・ヒト口腔扁平上皮癌細胞株を用いた抗癌薬感受性に関する基礎研究 ・ヒト口腔扁平上皮癌細胞を用いた癌の増殖・浸潤機序に関する基礎研究 ・マウス口腔扁平上皮癌モデルを用いた免疫学的解析 ・ヒト線維芽細胞を用いた口腔粘膜炎予防に関する研究 ・低侵襲な口腔癌治療の開発に関する研究 ・口腔細菌が全身疾患に及ぼす影響に関する研究
臨床検査医学 教授 仁井見 英樹 hiniimi@med	本修士課程においては、既存の臨床検査法を少しでも進歩・発展させるような新たな研究開発に従事して貰う予定である。既存の臨床検査法を進歩・発展させるには、具体的には検査の迅速性、簡便性、感度、特異度の少なくとも何れか1つをより良く改善することであり、結果として臨床への貢献につながり得る。更に今までに無い新たなバイオマーカーを測定出来るようになれば、新たな医療を創出する可能性さえ生じる。以上、自由な発想かつ科学的なアプローチで、研究開発に果敢にチャレンジして頂きたい。
和漢診療学 教授 貝沼 茂三郎 kainuma@med	近年の漢方医学への関心の高まりから、漢方薬を処方する医師が増えている。しかし多くの医師はエビデンスを基にいわゆる“（西洋医学的）病名処方”を行っている。しかし、“病名処方”した漢方薬が無効だった時はどうか？実際、病名的に処方できる漢方薬は限られているため、次の一手を打つことが難しいと思われる。序論では漢方処方を漢方医学的観点から適切に運用できるように漢方医学について歴史、病態概念、診断および治療について理解することを目標とする。
救急医学 教授 土井 智章 doit@med	救急医学の「救命する」という概念は、医の原点である。そのため、救急医学は、すべての医療従事者が学ぶべき領域と言える。その標準的といえる領域の普遍的な内容を教育することは重要な課題の一つである。 また救急医学は急速に進展する生体侵襲との戦いであり、救命のためには、時間的制約や少ない情報量の中でいかにダメージコントロール治療や根本治療を行えるかが課題である。生体侵襲学が救急医学では重要であり、生体侵襲に対する病態生理の解析、治療法の確立は救急医学の研究対象であり、それらを解析することも目標の一つである。 指導内容 心肺蘇生の標準化と教育方法の開発 外傷の初期診療の標準化と医療職種に対する教育方法の開発 災害医療の標準化と教育方法の開発

分野名 教員名 連絡先	研究内容
腫瘍内科学・緩和医療学 教授 林 龍二 hsayaka@med	・がんゲノム医療の実臨床 ・免疫チェックポイント阻害薬効果と腸内細菌 ・高齢がん患者の疫学調査 ・一般人・医療人のがんに対する意識 ・担がん動物モデルを用いたがん免疫の研究 ・がん代謝の研究 ・がん細胞生物学と標的治療 ・緩和医療 漢方薬と支持療法
形成再建外科学・美容外科学 教授 佐武 利彦 toshi@med	形成再建外科・美容外科は、体表面の形態、機能、色調の異常を、手術をはじめ、レーザーやその他の手技で治療を行い、患者の術後QOLを改善・向上させることを大目標としている。顔面・四肢・体幹の先天異常の治療、整容面や機能面をより重視した外傷治療や悪性腫瘍切除後の再建、抗加齢治療・美容外科手術などが主な対象である。 10年、20年後を見据え、低侵襲で整容性に優れ、機能障害を残さず、患者満足度の高い治療法創出につながる成果を得ることが、本研究のミッションである。
医療AI・データ科学 教授 高岡 裕 ytakaoka@med	当分野では、分子シミュレーション解析を基盤とした数理モデル化による数理医学の確立、AIによる診断支援・病院機能向上の研究、地域の課題解決に向けた統合データ解析研究、東洋医学のうち鍼灸を対象とした分子細胞生物学および生命情報科学研究、教材開発研究、を取り扱う。 ・分子シミュレーションと数理モデルによる薬物有害反応予測法の確立（数理医学） ・分子シミュレーションと数理モデルによるがん分子標的薬の薬効予測（数理医学） ・核酸医薬の設計と薬効評価（計算創薬） ・ドラッグ・リバーポジングの計算創薬への応用（計算創薬） ・分子シミュレーション解析による病態の解明（数理医学） ・医用画像のニューラルネットワーク解析による診断支援の研究（医療AI） ・機械学習や自然言語処理などの応用による病院機能向上の研究（医療AI） ・医療と介護のサービス体制のマネジメントに関する研究（データ科学） ・公共サービスとしての地域医療の研究（データ科学） ・漢方（鍼灸）の治療効果の分子メカニズムの研究 ・医学部での漢方医学教育のうち鍼灸教育教材の研究開発
リハビリテーション医学 教授 服部 憲明 hattorin@med	リハビリテーション医学は、疾病・外傷で低下した身体的・精神的機能の回復を図り、障害を克服するという従来の解釈を発展させ、ヒトの営みの基本である「活動」に着目し、その賦活化を図り、よりよいADL（activities of daily living）・QOL（quality of life）を目指すようになってきている。その対象となる疾患・外傷は、脳神経系や運動器に留まらず、循環器、呼吸器、その他の内部疾患、がん、更には、サルコペニアやフレイルなど多岐に及ぶ。我々は、このような多様な疾患・障害に対して、最新の技術を取り入れた計測機器や解析法を用いたリハビリテーション診療の新たな客観的な指標の創出、また、機能回復とともにADLやQOLの向上を目指したリハビリテーション治療法の開発に取り組んでいる。
医療統計学 教授 米本 直裕 yonemoto@med	医療統計学は、統計学的な理論や手法、効率的な研究デザインの開発及び応用を通じて、医療の発展や地域の健康増進に貢献することを目的にしています。近年、臨床試験、臨床研究や疫学研究だけでなく、医療や健康に関するリアルワールドデータが、これまで以上に多様な情報源から指数関数的に増加しており、さらにコンピューティングや解析方法も急速に進歩しています。本講座では、これらを活用する新しい理論や手法の開発、それらの応用に関する研究を行っています。

分野名 教員名 連絡先	研究内容
行動生理学 教授 高雄 啓三 takao@cts	「こころ」は脳が司る機能のひとつとされている。この機能のために脳はさまざまな情報を受容して処理するが、その最終の出力は個体の行動という形で発現する。現代の科学をもってしても「こころ」を直接的に研究することは困難であるが、その物理的な基盤である脳とその最終的な発現である行動を対象とすることで科学的に研究を行うことができる。当研究分野では、行動遺伝学、行動薬理学、光遺伝学、生理学、データサイエンス等の手法を用いて記憶、学習、情動などのこころの物質的基盤の解明、および精神・神経の疾患の病態解明と治療法の開発を目指す。また、これらの研究に用いる新しい遺伝子改変マウスの作製や、生殖・発生工学技術の開発も行っている。

別表Ⅱ－２ 看護科学プログラム 指導教員研究内容一覧

分野名 教員名 連絡先	研究内容
基礎看護学 教授 西谷 美幸 (令和9年3月退職予定) nisitani@med 准教授 吉井 美穂 umiho@med	・看護実践の質的向上を図るための、論理的根拠や方法論、尺度開発等に関する研究 ・看護実践・看護教育・看護管理における、看護の論理抽出に関する研究 ・感染制御に関する研究 ・手指衛生に関する研究 ・天然成分の抗微生物作用に関する研究
成人看護学 教授 安田 智美 (令和8年3月退職予定) tomomi@med	・がん看護に関する研究 ・排泄障害者の社会復帰に関する研究 ・健康支援に関する研究 ・成人看護教育に関する研究 ・救命・救急法の方法に関する研究 ・NPの役割と責任、意思決定支援、チーム医療、多職種連携等に関する研究
母子看護学 教授 長谷川ともみ thase@med	・周産期のメンタルヘルスに関する研究 ・小児の発育・発達に関する研究 ・母子の相互作用に関する研究 ・母子の家族支援に関する研究 ・母子感染に関する研究 ・小児臨床看護に関する研究
老年看護学 准教授 中堀 伸枝 nakahori@med	・高齢者の健康に関する研究 ・認知症の予防に関する研究
精神看護学 教授 比嘉 勇人 hhiga@med	・メンタルヘルスに関する研究 ・スピリチュアルヘルスに関する研究 ・精神面への看護ケアに関する研究 ・精神看護教育に関する研究
地域看護学 教授 田村 須賀子 (令和9年3月退職予定) tamusuga@med	・地域看護活動の評価に関する研究 ・地域包括ケア、地域包括ケアシステムに関する研究 ・生活習慣に起因する健康問題と保健指導にかかわる研究
人間科学 教授 岩田 実 miwa0717@med	・糖尿病およびメタボリック症候群に関する基礎的研究 ・糖尿病およびメタボリック症候群の管理・疫学・成因に関する臨床的研究 ・病院感染に関する研究 ・大学生における肥満のリスク因子、予防に関する研究 ・運動器障害予防と治療に関する研究 ・在宅療養者の療養と生活を支える社会資源に関する研究、訪問看護の専門性に関する研究
行動科学 教授 堀 悦郎 hori@med	・情動およびコミュニケーションに関する行動科学的基礎研究 ・看護技術の効果に関する行動生理学的研究

別表Ⅱ－３ 先端薬科学プログラム 指導教員研究内容一覧

分野名 教員名 連絡先	研究内容
薬剤学 教授 細谷 健一 (令和8年3月退職予定) hosoyak@pha	・血液網膜関門の輸送機能解析と網膜への薬物送達 ・血液網膜関門細胞の再構築と細胞間相互作用解析 ・生体内関門組織における生理機能及び輸送機能解明
応用薬理学 教授 久米 利明 tkume@pha	・神経変性疾患，搔痒，疼痛および異常感覚の病態形成機構の解明およびその予防・治療薬の探索と開発 ・脳疾患，搔痒，疼痛および異常感覚の症状を呈する新規病態モデル動物の作出 ・食品・植物に由来する細胞保護物質の探索
生体認識化学 教授 友廣 岳則 (令和9年3月退職予定) ttomo@pha	・創薬を効率化するケミカルバイオロジー：創薬標的を探索する，可視化する，利用する，操作する化学 ・疾患プロテオミクスを促進するケミカルバイオロジー ・合成化学による多成分集積化で挑む創薬ケミカルバイオロジー
がん細胞生物学 教授 櫻井 宏明 hsakurai@pha	・炎症シグナルによるがん悪性化の分子機構の解明 ・がん分子標的の活性調節機構に関する研究 ・悪性黒色腫の進展を制御する細胞内シグナルの解明
薬化学 教授 井上 将彦 (令和9年3月退職予定) inouye@pha 准教授 千葉 順哉 chiba@pha	・合成化学を基盤とするケミカルバイオロジー - 特に，人工 DNA・タンパク制御・糖鎖認識の3プロジェクト
薬品製造学 教授 松谷 裕二 matsuya@pha	・創薬のための新しい有機合成反応の開発 ・医薬品開発のためのシーズ探索と構造活性相関研究 ・生物活性化合物の合成と構造最適化
分子神経生物学 准教授 田渕 明子 atabuchi@pha	・シナプス－核間の細胞内情報交換と遺伝子発現制御による神経機能調節機構の解明 ・転写因子群，シナプス分子群の機能破綻による神経疾患発症機構の研究，およびそれら分子群を標的とした創薬基盤研究
遺伝情報制御学 准教授 廣瀬 豊 (令和9年3月退職予定) yh620@pha	・RNA ポリメラーゼⅡによる転写開始の分子機構研究 ・哺乳動物メディエーター複合体による遺伝情報発現調節機構の研究 ・転写と共役したmRNA プロセシングの制御機構の研究 ・遺伝子発現プログラムの誤制御に起因するヒト疾患の発症機構に関する研究
分子細胞機能学 教授 宗 孝紀 tso@pha	・TRAF5 によるサイトカイン制御機構の解明 ・TNF タンパク質による免疫制御法の確立 ・副腎白質ジストロフィーの分子病態の解明

分野名 教員名 連絡先	研究内容
分子合成化学 教授 矢倉 隆之 (令和9年3月退職予定) yakura@pha	・環境調和型有機合成反応の開発研究 ・生物活性天然物の合成研究 ・生理活性物質の医薬化学的研究
生体界面化学 教授 中野 実 mnakano@pha	・膜脂質のダイナミクスと脂質輸送機構の解明 ・脂質フリップフロップの制御機構の解明 ・アミロイドβと脂質膜の相互作用の解明 ・脂質ナノ粒子の構造・機能評価と製剤学的応用
構造生物学 教授 水口 峰之 mineyuki@pha	・疾患関連タンパク質のコンフォメーションに関する研究 ・細胞内膜輸送の構造生物学的研究 ・タンパク質立体構造を基盤とした創薬研究
薬物生理学 准教授 清水 貴浩 takshimi@pha	・正常細胞とがん細胞におけるイオン輸送タンパク質（ポンプ、トランスポーター、イオンチャネル）の生理学、生化学、薬理学的研究 ・イオン輸送タンパク質の新規機能関連機構の解明 ・イオン輸送タンパク質の新規病態生理機能の解明
医療薬学 教授 藤 秀人 hidetoto@pha	・時間薬物療法の臨床応用に向けた基礎研究と臨床研究 ・病態の日周リズム形成制御因子の同定による新規医薬品の創製 ・患者一人一人に合わせた個別化時間薬物療法の構築 ・経鼻脳薬物送達による中枢疾患治療法の構築および経鼻投与型製剤の開発
病態制御薬理学 教授 笹岡 利安 (令和8年3月退職予定) tsasaoka@pha	・2型糖尿病の成因解明を基盤とした新たなインスリン抵抗性改善薬の開発 ・中枢性の糖代謝調節に関わる臓器間ネットワーク機構の解明 ・糖尿病合併症の機序の解明と治療法の開発
薬物治療学 教授 新田 淳美 nitta@pha	・精神疾患の発症原因の解明を目的とする行動薬理、分子生物および細胞生物学的研究 ・精神疾患関連分子の同定および生理機能の解明 ・依存性薬物の毒性発現メカニズムの解明 ・嗜癖性を測定するための臨床マーカーの開発 ・神経精神疾患モデルマウスの創出
実践薬学 教授 田口 雅登 taguchi@pha	・個別投与設計を目的としたミニマル臨床試験デザインとデータ解析法の開発 ・小児発達の個体差を考慮した薬物投与計画の最適化に関する研究 ・薬物治療上の諸問題の定式化とその解決に向けた科学的アプローチの実践
臨床薬品作用学 教授 恒枝 宏史 htsuneki@pha	・2型糖尿病および合併症の発症機序の解明と新規治療法の開発 ・脳と臓器連関を介した糖・脂質恒常性の維持機構の解明 ・嗅覚などの感覚器系の機能を活用した糖・脂質代謝の改善法の探索
臨床薬剤学 教授 加藤 敦 kato@med	・Protein-Ligand Dockingを活用した希少疾患リソソーム病に対するシャペロン化合物の医薬品設計と有効性の検証 ・科学的エビデンスに基づいた機能性化粧品の開発研究 ・植物からのイミノ糖の単離精製と医薬品としての応用研究 ・臨床経験を加味した和漢薬リバーstransレーショナルリサーチ

分野名 教員名 連絡先	研究内容
製剤設計学 特命准教授 岡田 康太郎 kokada@pha	・核磁気共鳴の緩和現象を利用した製剤の物性評価法の開発
医薬AI・データ科学 特命教授 菅野 亜紀 sugano@pha	・分子シミュレーションや AI を用いた解析を基盤とするがん分子標的薬の薬効予測, 薬物有害反応の予測 ・バイオインフォマティクスや分子シミュレーションを用いた感染症関連分子のヒト受容体との結合親和性の解析 ・ <i>In silico</i> ドラッグ・リパーバシングによる薬物候補解析
細胞生物学 教授 伊東 史子 fitoh@las	・生体恒常性維持に関与するTGF- β ファミリーシグナルの役割解析 ・がん転移における血管・リンパ管内皮細胞の変化の解析 ・TGF- β ファミリー関連分子の遺伝子改変マウスを用いた疾患モデルの解析
ゲノム機能解析学 教授 田淵 圭章 ytabu@cts	・細胞分化の機械的制御 ・細胞ストレス応答の分子メカニズムの解明 ・環境化学物質の毒性影響の評価と毒性発現メカニズムの解明
資源科学 教授 庄司 翼 tsubasa@inm	・ナス科薬用植物の有用アルカロイド・テルペノイド経路の分子制御メカニズムの解明 ・タバコ属アルカロイド経路の新規制御メカニズムの解明 ・天然甘味化合物生合成・蓄積の解析 ・生薬の安定供給・生産のための応用研究
天然物創薬学 教授 森田 洋行 hmorita@inm	・天然有機化合物の生合成経路の解明 ・二次代謝酵素の立体構造基盤の確立 ・新規医薬品開発を目指した酵素機能の改変 ・植物, 微生物, 海洋生物からの生理活性物質の探索 ・アジアにおける未利用薬用資源の探索 ・新規抗栄養飢餓耐性スクリーニング方法を用いた薬用植物資源から天然抗がん剤の探索と開発 ・薬用植物に対する化学研究および生理活性を有する新規二次代謝産物の探索 ・生物活性を有する天然化合物の構造-活性相関性およびがん細胞の生存経路に対する作用機序の研究 ・FT-NMR 及びMS を用いたがん細胞に関連するメタボロームバイオマーカーの探索
神経機能学 教授 東田 千尋 chihiro@inm	・神経機能の活性化に関わる神経回路形成機序, および末梢臓器とのクロストークの研究 ・アルツハイマー病, 脊髄損傷, 頸椎症, 緑内障, 生活不活発病に対する根本的治療を目指した和漢薬研究 ・基礎研究を植物性医薬品開発, 漢方方剤の効能拡大に繋げるための臨床研究 ・ヒトの心身の健康状態に影響する要因分析とバイオマーカーの探索
生体防御学 教授 早川 芳弘 haya@inm	・NK 細胞のバイオロジーと免疫応答における役割の解明 ・腫瘍微小環境での自然免疫応答の役割に関する研究 ・炎症・アレルギー疾患モデルの病態解析と創薬研究 ・和漢薬による免疫応答および免疫疾患の制御に関する研究
複雑系解析学 教授 中川 嘉 ynaka@inm	・糖・脂質代謝を制御する転写因子の機能解析 ・細胞間, 組織間連関による栄養代謝調節の解明 ・和漢薬による生活習慣病改善の分子メカニズムの解明

分野名 教員名 連絡先	研究内容
未病学 教授 小泉 桂一 kkoizumi@inm	・ 生体情報のゆらぎの理解と医療応用 ・ 漢方薬から発見した免疫活性化ナノ粒子，および免疫活性化核酸断片の機能解明とその医療応用
漢方診断学 教授 柴原 直利 (令和8年3月退職予定) shiba1@inm	・ 漢方方剤や構成生薬の薬理効果及びその作用機序 ・ 漢方医学的病態や証の指標探索

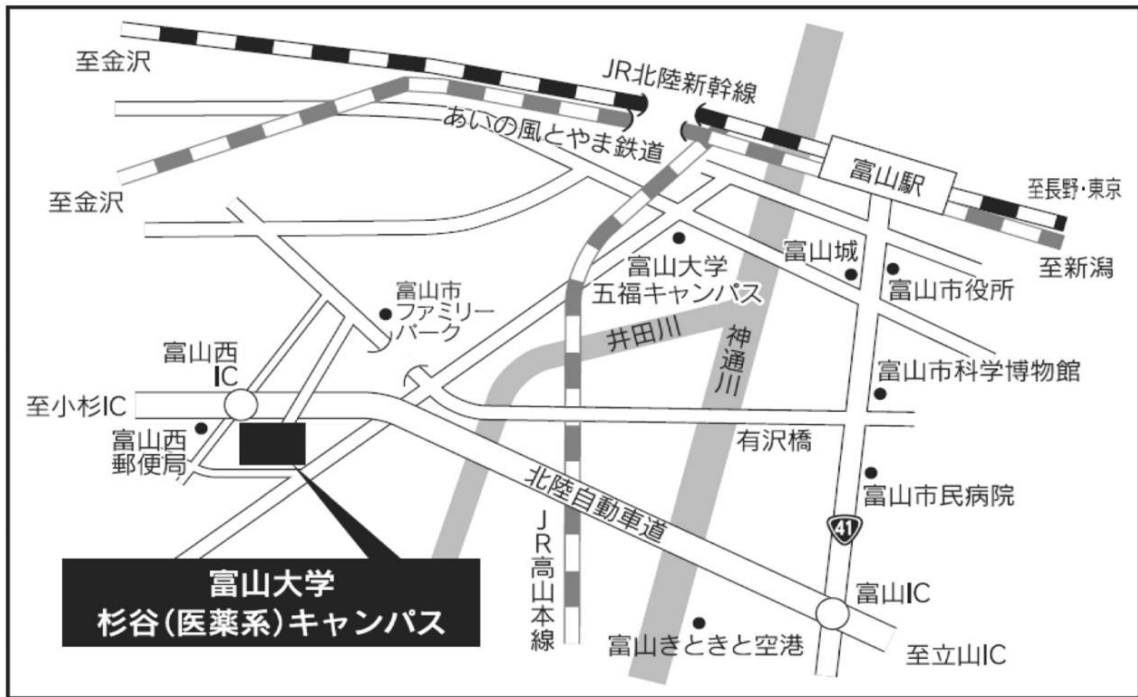
※博士前期課程先端薬科学プログラムには，上表のほかに次の研究室があります。

植物機能科学，数理医薬評価学

※別表Ⅱ－1～3に連絡先として本学メールアドレスの一部を記載しました。指導を希望する教員との事前相談にご利用ください。なお，利用の際には記載のアドレスの後に".u-toyama.ac.jp"を追加してください。

例) abc@def → abc@def.u-toyama.ac.jp

富山大学 キャンパス位置図



富山大学 杉谷(医薬系)キャンパス

富山大学杉谷(医薬系)キャンパスへの交通機関

◎ バス

・富山駅南口のバス停留所(4番のりば)から「富大附属病院循環」に乗車、「富山城大学附属病院」停留所にて下車(所要時間約30分)

◎ その他

- ・富山きときと空港より車で約25分
- ・北陸自動車道「富山西IC」より車で約5分

学生募集要項、障害を有する入学志願者の事前相談

及び入学試験に関する問い合わせ先

* 問い合わせは、やむを得ない場合を除き、志願者本人が行ってください。

〒930-0194 富山市杉谷2630番地

富山大学 杉谷(医薬系)キャンパス 杉谷地区事務部学務課(入試担当)

電話 (076) 434-7658